

目 次

繊維情報

・2006年12月の繊維品輸出概況(繊維品全体・原料・織編物・主要二次製品).....	1
・2006年11月の繊維品輸入概況(繊維製品計・糸類・織物類・衣類).....	8
・アジア 中 国 2006年1~11月の繊維品貿易・輸出は高い伸びを維持、輸入は2桁の伸び.....	11
インドネシア 2006年1~9月の繊維品貿易・輸出は好調、輸入は微増.....	14
・米 州 米 国 2006年11月の繊維品輸入、微減.....	17
2006年12月の大手小売店販売、3%増.....	20

組合関係の会議と催事

・(2007年1月)(2007年2月のスケジュール).....	24
---------------------------------	----

組合業務報告

・輸入組合各委員会の2007年輸入見通し策定と2006年委員会活動報告(輸入).....	26
--	----

お知らせ

・繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出).....	38
・「イラン」向け保険引受方針の変更(輸出).....	39
・「グルジア」向け他8カ国の保険引受方針変更(輸出).....	40
・3月の輸入通関手続相談窓口開設日(輸入).....	41



2006年12月の繊維品輸出概況

- ・ 繊維品全体の輸出
- 前年同月比 9% 増の 8 億 2,629 万ドルと 5 ヶ月連続で増加 -

2006年12月の繊維品輸出は、ドルベースで、前年同月比 9% 増の 8 億 2,629 万ドルと、5 ヶ月連続の増加となった。

なお、為替が 2005年12月の 118.64 円に対し、2006年12月は 117.30 円と約 1% の円高推移となり、円ベースでは 8% 増の 969 億 2,300 万円と、2006年に入り、2 月以降連続して増加推移が続いている。

この結果、2006年1-12月のわが国の繊維品輸出は、ドルベースで前年比横ばいの 80 億 7,017 万ドル、円ベースでは 6% 増の 9,423 億 7,600 万円となった。

なお、2006年年間の平均為替は 116.31 円で約 6% の円安推移となっている。

< 主要地域・国別輸出 >

12月の輸出を主要地域別に見ると、全輸出の 76% を占め、わが国の輸出動向を左右する最大市場の東アジア向けが 4 ヶ月振りに増加に転じ、また欧米、西アジアも前月に続き健闘し、主要地域は各々好調な推移となった。

東アジアの主要国向けでは、台湾、フィリピンが低調な推移となったが、その他主要国では、最大市場の中国を始め、香港、韓国、ベトナム、タイ、シンガポール、マレーシアが共に好調に推移し、全体としては前年同月比 7% 増（前年同期比：2% 減）の 6 億 3,443 万ドルと 4 ヶ月振りに増加に転じた。

純輸出市場向けは、シェア 4% の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国、イランが共に好調に推移し、全体として 22% 増（同 22% 増）の 3,409 万ドルと引き続き増勢を持続している。

欧米市場もこのところ揃って好調な推移となっており、シェア 8% の EU は、主力の織物類、また原料類（綿・糸）が共に好調に推移し、21% 増（同 6% 増）の 6,548 万ドルと大幅に増加した。一方、同じくシェア 8% の米国も、綿類、アパレル類が大幅に増加し、13% 増（同 8% 増）の 6,203 万ドルと前月に続き 2 桁の増加となった。

< 主要品目別輸出 >

これを主要商品別にみると、まず綿類の輸出は、全体としては、数量で 2% 減（同 2% 減）となったが、金額は、単価の上昇により 9% 増（同 4% 増）と、数量減の金額増となった。

太宗の合繊綿は、数量で 5% 減（同 1% 減）、但し金額では 9% 増（同 6% 増）となった。この内、主力のアクリル綿は、量的にはインドネシア、イラン、EU、米国が好調に推移した

繊維製品輸出実績（2006年12月）

	単位	2006年12月						2006年1月～12月						2005年実績		
		数量		金額		前年同月比		数量		金額		前年同期比		数量	金額	金額
		数量	千ドル	数量	ドル	数量	ドル	数量	千ドル	数量	円	ドル	数量	百万円	千ドル	
繊維品総合計	ドル															
原料(綿)合計	トン	33,002	96,923	10,485	89,384	98	108	406,322	810,254	98	106	416,305	890,100	8,070,165	107,778	978,717
スフ綿		6,052	2,393	20,397	111	107	62,898	222,022	99	110	104	63,446	23,495	212,920	23,446	212,920
合繊綿		24,083	7,852	66,936	95	109	313,244	90,883	781,236	99	112	316,728	81,370	739,213	81,370	739,213
(ポリエステル)		4,172	864	7,362	105	117	46,753	8,787	75,520	103	111	45,356	7,900	71,868	7,900	71,868
(アクリル)		17,712	5,561	47,411	94	111	238,023	65,809	565,715	98	111	242,939	59,092	536,513	59,092	536,513
糸_合計	トン	11,477	9,579	81,662	97	108	132,701	103,128	886,798	100	108	132,208	95,133	864,266	95,133	864,266
人絹糸		1,256	1,098	9,364	103	108	12,210	10,436	89,752	95	108	12,825	9,694	87,856	9,694	87,856
スフ糸		35	54	457	204	181	301	405	3,486	98	94	306	430	3,918	430	3,918
合繊長糸		9,144	7,331	62,500	97	111	109,458	80,070	688,416	102	110	107,118	72,886	662,944	72,886	662,944
(ナイロン)		2,096	1,636	13,949	92	99	23,766	18,058	155,289	99	107	23,971	16,878	153,473	16,878	153,473
(ポリエステル)		3,203	1,733	14,775	96	107	38,017	18,443	158,578	96	104	39,619	17,695	161,032	17,695	161,032
合繊短糸		231	248	2,117	64	81	3,777	3,445	29,676	86	97	4,378	3,565	32,329	3,565	32,329
綿糸		671	519	4,425	94	100	5,070	3,918	33,663	92	93	5,540	4,213	38,008	4,213	38,008
織物合計	千SM	131,363	42,041	358,403	106	108	1,225,416	366,514	3,151,180	100	102	1,220,260	359,644	3,257,973	359,644	3,257,973
絹織物		626	1,105	9,423	87	95	7,587	12,680	109,039	92	95	8,261	13,387	121,576	13,387	121,576
人絹織物		7,686	2,601	22,178	107	100	74,363	26,439	227,232	92	104	81,049	25,408	230,287	25,408	230,287
スフ織物		1,331	696	5,937	104	108	9,863	4,484	38,529	79	87	12,434	5,172	46,859	5,172	46,859
合繊長織物		59,713	14,159	120,711	112	115	582,944	127,746	1,098,929	102	105	569,210	121,637	1,100,944	121,637	1,100,944
(ナイロン)		7,349	1,739	14,822	129	132	72,490	15,668	134,852	124	132	58,693	11,881	107,382	11,881	107,382
(ポリエステル)		45,190	9,973	85,024	111	113	447,965	93,242	802,228	100	102	447,797	91,064	824,217	91,064	824,217
合繊短織物		19,737	4,945	42,161	114	119	181,330	41,654	358,097	109	106	166,976	39,477	358,090	39,477	358,090
絹織物		37,086	14,627	124,696	95	101	315,623	112,849	969,658	97	100	324,399	112,859	1,023,683	112,859	1,023,683
毛織物		4,375	3,225	27,494	100	103	49,597	37,479	322,469	92	97	54,172	38,815	350,009	38,815	350,009
不織布	千SM	55,717	6,319	53,874	95	119	610,924	63,003	541,547	103	113	592,985	55,758	505,607	55,758	505,607
タイヤコード織物	千SM	1,617	278	2,373	143	149	17,335	2,872	24,684	113	112	15,300	2,565	23,416	2,565	23,416
コーテッド織物	トン	1,739	4,630	39,473	132	131	18,075	46,355	398,997	103	109	17,585	42,650	387,386	42,650	387,386
ニット生地	ドル		8,144	69,432		109		73,463	631,885		111		66,435	600,666	66,435	600,666
アパレル	ドル		3,330	28,393		108		40,668	349,292		100		40,709	370,175	40,709	370,175
その他	ドル		12,116	103,291		103		127,380	1,095,332		107		119,428	1,081,958	119,428	1,081,958

(注) 1. 繊維品総合計は、HS関税分類11部の合計。 2. 原料(綿)、糸、織物合計は分類番号50類から55類までのそれぞれの合計。

3. アパレルは61類(ニット製衣類)と62類(布帛製衣類)を合算したもの。 4. その他は、63類及び56類～59類の一部商品。

ものの、最大市場の中国、また香港、タイが減少し、数量で6%減(同2%減)となった。但し、単価の上昇により、金額では11%増(同5%増)となった。

一方、ポリエステル綿は、中国、米国が大幅に減少したが、最大市場のタイ、マレーシア、EUが好調に推移し、数量で5%増(同3%増)となった。また、単価はアクリル綿同様に上昇し、金額では17%増(同5%増)と2桁の増加となった。

その他の合繊綿では、ビニロン綿は、東アジアは好調に推移したが、主力のEUが低迷し、数量で20%減(同2%減)、金額で17%減(同3%減)と数量、金額共に2桁の減少となった。

スフ綿は、最大市場の中国が激減したが、韓国、EU、トルコが伸び、数量で11%増(同1%減)、金額で7%増(同4%増)と好調な推移となった。

糸類の輸出は、数量で3%減(同横ばい)、金額で8%増(同3%増)と綿類同様数量減の金額増となった。

主力の合繊長繊維糸は数量で3%減(同2%増)、金額で11%増(同4%増)となった。

その内訳は、ポリエステル長繊維糸は、中国、タイは健闘したが、米国、EUが減少し、数量で4%減(同4%減)となった。但し、金額では単価のアップにより、7%増(同2%減)となった。一方、ナイロン長繊維糸は、中国、タイ、EUは好調に推移したが、台湾、フィリピン、米国が減少し、数量で8%減(同1%減)、金額で1%減(同1%増)となった。その他の合繊長繊維糸では、ポリウレタン糸は、台湾、EUが伸びたが、中国、香港が減少し、数量で2%減(同10%減)となった。但し、金額では単価の上昇により7%増(同14%減)となった。アクリル長繊維糸はEUが好調に推移したが、米国、東アジアが振るわず、数量で10%減(同14%増)、但し、金額では7%増(同16%増)となった。

また、人絹糸は、韓国が大幅に減少したが、中国、EUが健闘し、数量で3%増(同5%減)、金額で8%増(同2%増)となった。

太宗の**織物類**の輸出は、数量で6%増(同横ばい)、金額で8%増(同3%減)と数量、金額共に好調な推移となった。

織物の内訳では、中心品目の**ポリエステル長繊維織物**は、数量で11%増(同横ばい)、金額で13%増(同3%減)と数量、金額共に2桁の増加となった。

地域的には、全体の73%を占める東アジア向けは、マレーシア、フィリピンが不振に推移したが、最大市場の中国を始め、香港、ベトナム、韓国、台湾、シンガポール、インドネシア、スリランカが軒並み増加し、東アジア全体としては14%増(同横ばい)となった。

一方、純輸出市場向けは、西アジアは、サウジアラビアは減少したが、アラブ首長国が健闘し、西アジア全体として9%増(同5%増)となった。

欧米市場向けは、EUは4%増(同13%増)、米国は2%増(同13%減)と揃って堅調な推移となった。

ナイロン織物は、数量で29%増(同24%増)、金額で32%増(同26%増)と引き続き好調を維持している。

シェア85%の東アジア向けは、主力の中国、香港が揃って好調で、全体として33%増(同

30%増)と大幅な増加を記録した。その他では、シェア4%のEUが105%増(同52%増)と好調であるが、シェア6%の米国は24%減(同25%減)の大幅な減少となっている。

綿織物は、数量で5%減(同3%減)、金額で1%増(同5%減)と伸び悩みが続いている。

83%のシェアを占める東アジア向けは、ベトナム、台湾が好調に推移したが、中国、香港、タイ、韓国、マレーシア、フィリピン、インドネシアが後退し、東アジア全体として7%減(同3%減)となった。その他の市場では、シェア11%の米国は11%増(同1%増)とこのところ回復傾向が続いている。

ポリエステル短繊維織物は、数量で18%増(同11%増)、金額で22%増(同1%増)と数量、金額共に増加推移となった。

全体の60%を占める東アジア向けは、ベトナムが減少したが、最大市場の中国また香港、マレーシアが増加し、東アジア全体として20%増(同4%増)となった。一方、シェア38%の民族衣装用の西アジアは、サウジアラビア、アラブ首長国、クエートが揃って増加し、西アジア全体として17%増(同25%増)となった。

人絹織物は、数量で7%増(同8%減)、金額で横ばい(同1%減)と数量増の金額横ばいとなった。

シェア74%の東アジアは、最大市場の香港が微減となったが、中国、韓国が健闘し、東アジア全体として9%増(同1%減)となった。一方、シェア14%の西アジアは、サウジアラビアが停滞したが、アラブ首長国が大きく増加し、全体として19%増(同11%増)となった。また、欧米市場は、米国は2%減(同10%減)、EUは24%減(同14%減)と共に低調な推移となった。

毛織物は、数量で横ばい(同8%減)、金額で3%増(同8%減)となった。

地域的には、東アジアが97%とほぼ全量を占めている。中国が微増となったが、香港、韓国、ベトナムが減少し、東アジア全体として3%減(同9%減)となった。

不織布の輸出は、数量で5%減(同3%増)、金額で19%増(同7%増)と数量減の金額増となった。

全体の55%を占める東アジアは、最大市場の中国、香港が増加し、韓国、タイ、マレーシア、台湾が減少したが、全体として4%増(同7%減)となった。

欧米市場は、シェア35%の米国は26%減(同24%増)となったが、一方、シェア6%のEUは17%増(同2%減)と増加した。

コートッド織物の輸出は、数量で32%増(同3%増)、金額で31%増(同3%増)と数量、金額共に大幅な増加となった。

全体の82%を占める東アジアは、最大輸出先の中国、香港、タイが大きく伸び、全体として27%増(同4%増)となった。

欧米市場は、シェア5%のEUは28%増(同5%増)、同じくシェア5%の米国は114%増(同15%減)と前月に続き増加推移となった。

ニット生地の輸出は、数量で10%増(同4%増)、金額で9%増(同5%増)と数量、金額共に好調に推移した。

全体の約9割強を占める東アジア向けは、主要国では、最大市場の中国、またインドネシアが

好調な推移となった。一方、香港、ベトナム、韓国、台湾、タイは減少推移となった。

また、欧米市場向けは、米国は大幅な増加が続いているが、EU は、数量、金額共に大幅な減少推移となった。

アパレルの輸出は、金額で8%減（同6%減）と5ヶ月ぶりに増加に転じた。

内容的には、布帛製衣類では、外衣類は、主要国の台湾、中国が大幅に後退したが、香港、EU、米国が健闘し、金額で33%増（同2%減）となった。また下着類も、台湾、香港は振るわなかったが、韓国、中国が健闘し、金額で10%増（同6%増）となった。

一方、ニット製衣類では、外衣類は、香港が健闘し、台湾、中国の不振をカバーし、金額で4%増（同4%減）となった。一方、下着類は、香港が健闘したが、台湾、韓国が振るわず、金額で11%減（同17%減）となった。

その他二次製品は、金額で3%増（同1%増）と堅調に推移した。

・原料（綿・糸）の輸出

<綿輸出>

合繊綿、スフ綿などの綿合計は、ポリエステル綿、スフ綿が増加推移となったが、ビニロン綿及び主力のアクリル綿が減少推移となり、全体では2%減の33,002トン（1-12月累計：406,322トン、前年比2%減）金額については8%増の8,938万ドル（同10億2,283万ドル、5%増）となった。

2006年12月の原料（綿・糸）の輸出状況

単位：トン、千ドル、セント、%

	2006年12月				2006年1～12月			
	数量	前年 同月比	金額	単価	数量	前年 同期比	金額	単価
スフ綿	6,052	111	20,397	337	62,898	99	222,022	353
合繊綿	24,083	95	66,936	278	313,244	99	781,236	249
ポリエステル	4,172	105	7,362	176	46,753	103	75,520	162
アクリル	17,712	94	47,411	268	238,023	98	565,715	238
他合繊綿	2,200	89	12,164	553	28,469	100	140,002	492
人絹糸	1,256	103	9,364	746	12,210	95	89,752	735
合繊長糸	9,144	97	62,500	683	109,458	102	688,416	629
ナイロン	2,096	92	13,949	666	23,766	99	155,289	653
ポリエステル	3,203	96	14,775	461	38,017	96	158,578	417
他合長糸	3,846	101	33,776	878	47,675	110	374,550	786
綿糸	671	94	4,425	659	5,070	92	33,663	664

出所：財務省統計

<糸輸出>

糸は、人絹糸が堅調に推移したが、合繊短繊維糸、綿糸、主力の合繊長繊維糸が不振推移となり、全体では3%減の11,477トン（132,701トン、横這い）、金額については8%増の8,166万ドル（8億8,680万ドル、3%増）となった。

・ 織・編物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出

12月の織物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出は、ポリエステル長繊維織物、ポリエステル短繊維織物、ナイロン織物が好調な伸びを記録し、綿織物等その他織物も減少幅は小さく、織物トータルとしては、数量で前年同月比6%増（1-12月：前年同期比横ばい）、金額では8%増（同3%減）と近月に無い好調な推移となった。

2006年12月の織・編物（絹・化合繊・綿・毛）の輸出状況

（単位：1000SM、1000\$、前年比は数量比%）

	2006年12月			2006年1-12月		
	数量	金額	前年同月比	数量	金額	前年同期比
絹織物	626	9,423	87	7,587	109,039	92
人絹織物	7,686	22,178	107	74,363	227,232	92
スフ織物	1,331	5,937	104	9,863	38,529	79
合繊（長）織物	59,713	120,711	112	582,944	1,098,929	102
ポリ（長）織物	45,190	85,024	111	447,965	802,228	100
ナイロン織物	7,349	14,822	129	72,490	134,852	124
合繊（短）織物	19,737	42,161	114	181,330	358,097	109
ポリ（短）織物	18,937	40,145	118	170,401	334,664	111
綿織物	37,086	124,692	95	315,623	969,658	97
毛織物	4,375	27,494	100	49,597	322,469	92
コーテッド織物	1,739	39,473	132	18,075	398,997	103
ニット生地	20,565	69,432	110	188,854	631,885	104

（注）1. ポリエステル（長）、ナイロン（長）織物は、ポリエステル、

ナイロンの重量が全体の85%以上の織物。

2. コーテッド織物の数量単位はトン。

なお、この織物トータルの中に含まれていない、ニット生地及びコーテッド織物も、数量、金額共に好調な推移となった。

市場的には、織物トータルでは、主力の東アジアは、主要国では、中国、韓国、ベトナム、シンガポール、インドネシアが数量、金額共に前年同月を上回り健闘した。一方、香港は数量横ばいの金額減、マレーシアは数量増の金額減、台湾、タイ、フィリピンは数量、金額共に減少推移となった。特に、中国の回復は先行き明るい材料となっている。

純輸出市場では、西アジアは、アラブ首長国、サウジアラビアは揃って数量、金額共に前年同月を上回り増勢を維持している。

欧米市場は、EUは主力のポリエステル長繊維織物が伸び数量、金額共に前年同月を上回ったが、一方、米国は綿織物が健闘したが、ポリエステル長繊維織物が額的に伸び悩み、数量増の金額横ばいとなった。

・主要繊維二次製品の輸出

繊維二次製品の2006年12月の輸出は、金額(ドル)ベース(以下同じ)で、アパレルは、ニット製下着が不振で推移した他は、布帛製外衣・下着、ニット製外衣がいずれも増加推移となり、全体では前年同月比8%増の28,393千ドル(1-12月累計:349,292千ドル、前年比6%減)となった。

他方、その他の品目については、敷物及び漁網・その他の網・網地が減少推移、細幅織物・紐類が増加推移となった。

2006年12月の主要繊維二次製品輸出状況

単位：千米ドル、金額：前年比%

	2006年12月		2006年1~12月	
	金額	前年同月比	金額	前年同期比
布帛製衣類・付属品	17,641	116	202,136	98
外衣	10,910	133	121,212	98
下着	3,302	110	44,902	106
スカーフ・マフラー	365	48	7,058	87
ニット製衣類・付属品	10,752	98	147,156	90
外衣	3,468	104	54,568	96
下着	4,060	89	58,260	83
敷物	2,578	91	28,747	88
漁網・網・網地	3,761	69	44,462	113
細幅織物・紐類	19,385	103	183,274	96

2006年11月の繊維品輸入概況

1. 繊維製品計

11月の輸入は、金額が円ベースで前年同期比108.6%（前月比は84.6%）、ドルベース同109.6%（前月比は85.5%）、数量(重量)同106.8%（前月比は91.9%）と、円金額が16ヶ月連続で増加、ドル金額は9ヶ月連続増加、数量も5ヶ月連続で増加した。前月比は、秋冬物の入荷ピークを越え金額、数量ともに減少した。

糸類は数量で前年同期比16.7%増と5ヶ月続けて増加。内訳は、前月と同じく毛糸、綿糸、人織(長)糸、人織(短)糸が増加、絹糸、その他の糸が減少した。織物類は同0.6%減とほぼ横這いながら5ヶ月ぶりに減少。人織(長)織物、その他の織物が増加、絹織物、毛織物、綿織物、黄麻織物、人織(短)織物、メリヤス生地が減少した。衣類は同5.9%増加となり3ヶ月続けて増加した。衣類を除くインテリア用品等の二次製品は同7.4%増で9ヶ月続けて増加した。

前月は前年同期比で円金額が18.0%、ドル金額が14.2%、数量も10.3%の増加と揃って10%を超える大幅増となったが、今月は円金額が8.6%、ドル金額が9.6%、数量も6.8%の増加となり、前月からは増加幅が小さくなったものの引き続き増加となった。なお、11月の為替相場は、前年同月比で2005年7月から続いた円安から僅かながら円高に変わり、前年同月比0.9%円高の117円35銭であった。ドル金額の内訳を見ると、糸類が24.5%の大幅増、織物類は1.9%増、太宗を占める衣類は8.9%増、二次製品は12.7%増加し、繊維製品計では9.6%の増加となった。

2. うち糸類

- 綿糸の輸入実績は、トンベースで前月比3.6%減となったものの4ヶ月連続の4万梱台となり、前年同月比も12.8%増となるなど4ヶ月連続のプラスとなった。これは、7月以降の需給の改善によるところと、国内紡績の断続的な設備縮小によるものと思われる。綿糸輸入の85%を占める純綿糸の輸入実績を前月に比較すると主要国のパキスタンが4ヶ月連続の1万梱台となる12.1%の増加、3位の中国も8.6%の増となったが、前月2位のインドネシアは調整もあり31.2%の減少となり4位に転落した。番手別では20番手中心がパキスタンの増もあり8.2%の増加となったものの、30番手中心が8.3%の減、40番手中心6.0%、40番手以上も8.8%それぞれ減少となった。糸種別にみるとカード糸13.6%の増となったもののコマ糸は13.6%の減少となった。なお、混紡綿糸は13.9%のマイナスとなった。
- 毛糸の輸入実績は前年同月比重量ベース21.3%増と7ヶ月連続の増加となり、6ヶ月続けて20%を超える大幅増となった。糸種別に見ると、紡毛糸が同123.8%増と引き続き大幅に

増加し 11 ヶ月連続で増加、太宗を占める梳毛糸も同 16.1% 増となった。国別では、トップシェアの中国が同 21.4% 増と 8 ヶ月連続で増加、第 2 位のマレーシアも同 68.7% 増加。この他の主要国は、インド、ペルーが増加、台湾、タイ、イタリアからの輸入は減少。

- 人織糸の輸入実績は、トンベースで人織(長)糸が前月比 1.7% 減と 3 ヶ月ぶりのマイナスとなったが、前年同月比は 20.7% 増と 3 ヶ月連続のプラスとなった。主要商品を前月に比較すると量的に少ない人絹糸が 12.5% と大きな増加となったが、主力商品の台湾を中心とするポリエステル糸が前月までの 3 ヶ月連続増の調整もあり 3.1% 減、米国を中心とするナイロン糸も 6% の減となった。一方、人織(短)糸も主力商品の T/C, T/R のポリエステル紡績糸が 11.7%、ガムテープのスフ糸は 12.3%、マイヤー毛布用のアクリル紡績糸 23.0% と主要商品が軒並み減少となったことにより全体で前月比は 12.4% のマイナスとなったが、前年同月比は 5 ヶ月連続プラスの 21.3% の増加となった。

3. うち織物類

- 綿織物の輸入実績は、面積ベースで前月比 3.2% 増となったものの、前年同月比は 11.3% の 2 桁の減少となった。これは、綿織物の需要期であるものの前年に比べ製品輸入の更なる増加による需要減、為替が円安に推移していることによるものと思われる。国別で前月に比較すると、全体の 80% 以上を占める中国は増値税還付率の引き下げ前の押しこみ輸出もあり 10.2% の 2 桁増となったものの、2 位のインドネシアが 41.5% の大幅減、3 位のパキスタンも 23.5% の落ち込みとなった。品種別にみると、ポプリン、粗・細布は減少となったが金巾、綾織りは増加となった。
- 毛織物の輸入実績は、面積ベースで前年同月比 20.1% 減少し、2 ヶ月続けて減少となった。中国からの輸入が同 27.4% 減と 2 ヶ月連続で減少し、イタリアからの輸入も 13.7% 減と減少に転じた。また、第 3 位のイギリスも同 15.1% 減で 3 ヶ月続けての減少。品種別では、紡毛織物が同 22.8% 増と 3 ヶ月ぶりに増加、主力の梳毛織物は同 22.2% 減と 2 ヶ月続けて減少した。
- 人織織物の輸入実績は、面積ベースで人織(長)織物が前月比 13.1%、前年同月比も 8.9% それぞれ増加となった。品目別に前月に比較すると主力商品のポリエステル織物が 15.9%、ナイロン織物 15.9%、ポリプロピレン等その他織物も 6.8% と軒並みプラスとなった。国別に前月に比較すると 2 位の韓国が 10.9% の減少となったが、首位の中国が 6.3% 増、3 位の台湾は 96.3%、ベトナム等その他の国は 21.5% それぞれ増加となった。一方、人織(短)織物は T/C 織物の落ち込みもあり主力商品のポリエステル織物は 19.9% 減、インドネシアを中心とするスフ織物も 10.7% 減と振るわず、全体では前月比 16.3% 減、前年同月比でも 7.6% の減少となった。

4. うち衣類

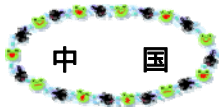
ニット製衣類が対前年同月比（枚数）で 4.5% 増、布帛製衣類も同 0.4% 増、身の廻り品も重量ベース 16.9% 増となり、衣類計で重量ベース 5.9% 増加となった。ニット製衣類は 3 ヶ月連続で増加し、布帛製衣類、身の廻り品もともに 3 ヶ月連続で増加、衣類計も 3 ヶ月連続で増加した。

主要国別に見ると

- 中国は対前年同月比（枚数）でニット製衣類が 6.0% 増加し 3 ヶ月連続で増加、布帛製衣類はプラスマイナスゼロ、身の廻り品は重量ベース 18.0% 増で 3 ヶ月連続の増加となった。今年 1～11 月の衣類計（重量）のシェアは前月から 0.2 ポイント上昇し 91.5%（金額ベースでのシェアは同じく 0.4 ポイント上昇し 83.0%）。
- 韓国はニット製衣類が同 20.2% 減少、布帛製衣類も同 29.2% の大幅減となり、ニット製衣類、布帛製衣類ともに 7 ヶ月連続で減少した。
- イタリアはニット製衣類が同 8.0% 減と 5 ヶ月連続で減少、布帛製衣類も同 1.3% 減となり 2 ヶ月ぶりに減少した。
- ベトナムはニット製衣類が同 5.1% 減で 5 ヶ月ぶりに増加した前月から再び減少、布帛製衣類は同 20.8% 増となり 5 ヶ月続けて増加した。
- 商品別には、ニット製衣類ではズボン、ドレス、アウターシャツ、セーター、下着類が増加、コート、スーツ、アンサンブル、ジャケット、スカート、スポーツウェアが減少となった。中でも、ドレスは対前年同月比（枚数）で 2 倍超の 275.5% と前月に引き続き大幅増となった。布帛製外衣類では紳士用が同 6.0% 増、婦人用も同 2.6% 増加した。紳士用では、コートが増加、スーツ、アンサンブル、ジャケット、ズボン、下着類が減少、婦人用は、コート、アンサンブル、ドレス、ズボンが増加、スーツ、ジャケット、スカート、ブラウス、下着類が減少となった。

前月は数量が 10.3% 増加、金額も円ベースで 18.0%、ドルでも 14.2% 増加となったが、今月は数量が 6.8% 増加、金額も円ベースで 8.6%、ドルでも 9.6% 増加となり、数量、金額とも 5% を上回る増加で引き続き堅調に推移した。

外国為替市場では円安が進み、ドル、ユーロを始めとする主要通貨に対し円安となっている。特にユーロについては、この半年位の間約 10 円も安くなり、欧州からの輸入は厳しい環境になった。為替のコストアップ分を販売価格に転嫁できるラグジュアリーブランドはまでも、国内高級品と競合する欧州ブランドなどは、これ以上の円安が進むと輸入が大幅に減少することが懸念される。



2006年1～11月の繊維品貿易・輸出は高い伸びを維持、 輸入は2桁の伸び

【輸出】

- 28%増の1,251億3,500万ドルと依然高い伸びを維持 -

主要市場の欧米向けに規制枠が再び設定され、その動向が注目される2006年の中国の繊維品輸出であるが、1～11月の輸出は前年同期比28%増の1,251億3,500万ドルと、全体としては2005年同期(22%増)を上回る高率の伸びを維持し、依然好調に推移している。

単月での伸びを見ると、1月の24%増、2月4%増、3月36%増、4月27%増、5月31%増、6月25%増と、7月23%増、8月33%増、9月26%増、10月29%増、11月38%増と、2月に一度伸び率は鈍化したが、それ以降は依然大きな伸びを記録、特に11月は2006年の月間最大の伸びを示している。

< 地域別、国別輸出状況 >

地域別では、東アジアがシェア40%(前年同期比18%増)、ヨーロッパが同26%(同49%増)、北米が同16%(同20%増)、西アジアが同6%(同27%増)、中米が同3%(同48%増)、南米が同2%(同48%増)、アフリカが同5%(同35%増)、大洋州が同2%(同11%増)の市場構成となっており、各地域共に軒並み2桁の増勢を維持している。

国別では、1位EU(188億1,058万ドル:18%増)、続いて米国(173億6,536万ドル:16%増)、日本(169億8,654万ドル:8%増)、香港(158億7,763万ドル:22%増)、韓国(47億9,895万ドル:29%増)、ルーマニア(46億7,139万ドル:729%増)、ロシア(39億297万ドル:20%増)、カナダ(26億6,756万ドル:49%増)、アラブ首長国(24億2,898万ドル:15%増)、オーストラリア(21億4,726万ドル:11%増)、トルコ(18億8,825万ドル:218%増)、シンガポール(17億2,930万ドル:25%増)の順で、この12大市場で全体の輸出の75%のシェアを占めている。

2005年は枠が撤廃されたEU、米国向けが衣料品を中心に特に突出した伸びとなったが、2006年はEU、米国向けに枠が再設定されたこともあり、両国への伸びは大幅に鈍化している。代わって、韓国、香港、シンガポール等の東アジア諸国、ロシア、ルーマニア、カザフスタン等の旧東欧諸国、トルコ、カナダ、中南米諸国等が大きく伸び(特にルーマニア、トルコ向けが激増)、EU、米国向けの伸びの鈍化をカバーしているのが、2006年の特徴的な傾向である。

< 品目別輸出状況 >

品目別では、中国の繊維品輸出全体の64%を占める最大輸出品目の衣料品及び同付属品は、米国、EU向けの伸びが、枠の再設定により、昨年比に比べ大幅に減速しているにも拘らず、東アジア諸国、旧東欧諸国、カナダ等その他の諸国が大幅に伸び、34%増の801億8,837万ドルと大幅な伸びを記録し、依然中国の繊維品輸出を牽引している。

2006年11月の中国の繊維品輸出入状況

単位:1000ドル

	輸 入				輸 出					
	2005 年実績		2006 年 1 月 ~ 11 月		2005 年実績		2006 年 1 月 ~ 11 月		前年比	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
繊維品合計										
原料(綿)合計	TON	23,446,081	5,012,571	23,432,467	TON	107,688,506	125,135,005	128		
スフ綿	TON	164,419	6,817,524	107,445	7,536,942	TON	1,174,664	468,313	142	120
合繊綿	TON	835,306	467,136	574,947	315,853	TON	30,613	56,101	357	334
(ポリエステル)	TON	346,184	1,381,998	239,638	1,030,507	TON	327,466	310,677	138	133
(アクリル)	TON	484,623	423,153	312,907	308,870	TON	224,833	271,309	144	145
糸合計	TON	1,660,050	878,156	1,614,933	634,002	TON	4,332	2,117	110	136
人絹糸	TON	26,236	4,042,957	26,344	3,980,354	TON	1,376,620	1,619,521	128	125
スフ糸	TON	26,879	78,212	25,470	79,253	TON	70,216	83,360	131	135
合繊長繊維糸	TON	616,570	89,390	544,142	88,022	TON	30,579	36,627	127	123
(ナイロン)	TON	251,020	1,543,903	245,598	1,418,161	TON	381,855	513,086	149	146
(ポリエステル)	TON	295,494	662,585	245,598	693,512	TON	78,816	269,546	124	126
合繊短繊維糸	TON	149,671	522,692	246,500	442,066	TON	260,818	359,845	153	148
綿糸	TON	793,656	376,436	120,276	330,901	TON	325,104	955,133	121	119
繊維物合計	千LM	4,638,058	1,697,154	858,654	1,834,864	千LM	1,400,269	531,498	122	130
絹織物	千LM	117,096	6,009,460	33,649	5,361,019	千LM	16,563,084	15,443,436	110	113
人絹織物	千LM	45,693	117,096	33,649	95,976	千LM	288,182	721,273	85	109
スフ織物	千LM	82,694	122,550	72,350	128,032	千LM	36,016	31,193	122	115
合繊長繊維織物	千LM	58,124	100,319	42,237	79,779	千LM	898,195	660,363	107	108
(ナイロン)	千LM	2,016,102	2,029,732	1,752,605	1,821,147	千LM	6,144,908	4,716,087	105	102
(ポリエステル)	千LM	660,899	585,866	502,084	499,659	千LM	251,307	138,571	110	117
合繊短繊維織物	千LM	912,650	1,028,690	879,756	942,317	千LM	5,124,232	3,898,319	105	102
綿織物	千LM	695,082	792,728	566,635	702,211	千LM	3,337,745	2,289,888	117	129
毛織物	千LM	1,564,514	2,159,441	1,350,717	1,945,376	千LM	5,495,734	6,031,459	114	116
不織布	千LM	70,407	535,575	63,157	473,000	千LM	99,336	526,030	100	104
タイヤコード織物	TON	135,081	490,543	140,632	545,712	TON	160,753	361,112	117	123
コーテッド織物	TON	18,313	71,770	16,788	67,768	TON	79,345	273,436	99	92
ニット生地	TON	264,082	1,025,710	217,494	978,625	TON	463,269	1,120,590	124	127
ニット製衣料	TON	460,587	1,879,207	447,215	1,944,488	TON	929,084	3,652,257	121	127
布帛製衣料		695,240	659,814		659,814		30,875,728		144	
その他		816,218	799,588		799,588		35,038,492		124	
		1,597,452	1,558,157		1,558,157		14,841,986		119	

出所:中国海関統計

内容的には、ニット製の衣料品及び同付属品の輸出が44%増の402億9,104万ドルと大きく伸びており、また布帛製衣料品及び同付属品の輸出も24%増の398億9,734万ドルと高い伸びを維持している。

衣料品の主要輸出先は、ニット製衣料品では、トップ市場は日本(65億3,490万ドル:9%増)、続いて米国(51億3,801万ドル:16%増)、EU(51億340万ドル:13%増)、香港(42億9,103万ドル:52%増)、ルーマニア(33億1,463万ドル:11%増)、ロシア(16億2,420万ドル:69%増)、韓国(13億5,477万ドル:38%増)、カナダ(9億6,157万ドル:63%増)、カザフスタン(8億7,840万ドル:58%増)、オーストラリア(8億7,000万:6%増)の順となっており、米国、EUは2005年の激増もあり、低位の伸びに止まっているが、代わって東アジアの香港、韓国、東欧のロシア、ルーマニア、カザフスタン、またカナダ等が激増しているのが注目される。

また、布帛製衣料品の輸出先は1位がEU(83億9,490万ドル:23%増)、日本(74億9,558万ドル:7%増)、米国(70億2,694万ドル:16%増)、香港(35億5,638万ドル:22%増)、韓国(15億5,700万ドル:34%増)、ロシア(13億9,675万ドル:5%減)、ルーマニア(12億5,290万ドル:580%増)、カナダ(11億9,893万ドル:54%増)、オーストラリア(7億4,280万ドル:11%増)、シンガポール(6億2,972万ドル:58%増)の順で、ここでも、米国、EUの減速、一方、韓国、香港、シンガポール、カナダ、ルーマニア向けの増加が目立っている。

織物類の輸出は、太宗の綿織物及び合繊短繊維織物が好調に推移、ポリエステル長繊維織物も堅調で、全体として、数量で10%増の165億8,966万メートル、金額で13%増の158億ドルと数量、金額共に順調に推移している。

糸類の輸出も各品目共に好調で、合繊長繊維糸、中でも特にポリエステル長繊維糸の増加が著しく、また太宗の綿糸、合繊短繊維糸も大幅に増加しており、全体として数量で28%増の161万9,521トン、金額で25%増の56億6,055万ドルと、数量、金額共に好調な推移となっている。

綿類の輸出も、ポリエステル綿を中心とする合繊綿、またスフ綿の輸出が何れも大きく伸び、数量で42%増の46万8,313トン、金額で20%増の12億7,690万ドルと、規模は小さいが、高い伸びを記録している。

【輸 入】

- 綿花の増加もあり11%増の234億3,247万ドルと2桁の伸び -

繊維品輸入は、織物類の輸入は低調であるが、原料類で、国内の綿花不足から特に米国からの綿花の輸入が増加していることもあり、全体として11%増の234億3,247万ドルと2桁の伸びとなっている。

この結果、中国の1~11月の繊維品貿易収支の黒字額は前年同期比32%増の1,017億248万ドルと1,000億ドルの大台を突破した。

< 地域別、国別輸入状況 >

地域別では、東アジアがシェア 68%（前年同期比：6%増）を占め、西アジアが同 3%（同 38%増）、ヨーロッパが同 7%（同 11%増）、北米が同 12%（同 50%増）、中米が同 0.2%（同 47%減）、南米が同 1%（同 17%増）、アフリカが同 3%（同 19%増）、大洋州が同 6%（同 2%増）の市場構成となっており、中米を除き何れも増加している。

国別では、1位日本（32億4,520万ドル：4%減）、続いて台湾（30億8,529万ドル：横ばい）、米国（28億8,313万ドル：52%増）、韓国（24億9,993万ドル：6%減）、香港（16億8,075万ドル：1%増）、EU（14億2,741万ドル：9%増）、オーストラリア（12億734万ドル：2%増）、インド（8億389万ドル：213%増）、パキスタン（6億5,757万ドル：25%増）、ウズベキスタン（4億7,034万ドル：33%増）の順で、この10大市場で全体の輸出の77%を占めている。

< 品目別輸入状況 >

品目別輸入を見ると、綿関係では、化合繊綿の輸入は低調な推移となっているが、天然繊維の輸入は米国、インド等よりの綿花の輸入が大きく伸びており、全体として、数量で28%増の501万2,571トン、金額で24%増の75億3,694万ドルと大幅な増加となっている。

糸関係は、太宗の綿糸が大きく増加しており、合繊長繊維糸はほぼ横ばいで推移しているが、全体として数量で6%増の161万4,933トン、金額で7%増の39億8,035万ドルと数量、金額共に増勢で推移している。

一方、織物類は、綿織物、合繊長繊維織物、合繊短繊維織物等各品目が総じて低調な推移となっており、トータルでは、数量で4%減の39億5,955万メートル、金額で1%減の53億6,102万ドルとなっている。

その他品目では、ニット生地が金額で14%増の19億4,449万ドル、コーテッド織物が5%増の9億7,863万ドルと増勢で推移している。

また、衣料品は、額は小さいが、ニット製衣料品が5%増の6億5,981万ドル、布帛製衣料品が9%増の7億9,959万ドルと何れも増勢基調で推移している。



インドネシア

2006年1～9月の繊維品貿易・輸出は好調、輸入は微増

< 輸出は11%増の71億6,609万ドルと好調に推移 >

インドネシアの繊維産業は、人件費、燃料費の高騰など諸経費のコストアップ、設備の老朽化、中国品の密輸入の急増、更に中国品等との海外市場での競合激化等により、その競争力の低下が懸念されているが、2006年1～9月の繊維品輸出は、2005年から枠が撤廃された欧米向けを中心に好調に推移し、前年同期比11%増の71億6,609万ドル2桁の増加となっている。

地域別輸出をみると、シェア 40%の北米は 24%増、同 23%の欧州は 16%増、同 22%の東アジアが 3%減、同 5%の西アジアは 8%減となっており、主要地域では、東アジア及び西アジアは減少しているが、特に枠が撤廃された欧米向けの好調が目立っている。

主要輸出国は、米国（27億3,746万ドル：24%増）、EU（14億4,859万ドル：15%増）、日本（3億7,088万ドル：3%増）、アラブ首長国（2億1,099万ドル：9%減）、トルコ（1億8,841万ドル：28%増）、韓国（1億8,048万ドル：6%増）、ブラジル（1億5,757万ドル：47%増）、マレーシア（1億4,268万ドル：6%減）、シンガポール（1億2,251万ドル：18%減）、中国（1億1,428万ドル：19%増）、香港（1億1,341万ドル：22%減）、カナダ（1億636万ドル：19%増）の順となっている。

品目別輸出を見ると、最大輸出品目は衣料品で、全繊維品輸出額の 59%を占めているが、このうち、ニット製衣料品は 18%増の 16億2,912万ドル、太宗の布帛製衣料品は 11%増の 25億9,083万ドルで、いずれも 2桁の高い伸びを示し、インドネシアの繊維品輸出を牽引している。

ニット衣料品市場のベスト5は、米国（9億1,075万ドル：41%増）、EU（4億6,807万ドル：10%増）、日本（3,205万ドル：17%増）、アラブ首長国（3,150万ドル：36%減）、シンガポール（2,858万ドル：25%減）の順で、特に米国、EUで全体の 85%と圧倒的なシェアを占め、何れも高い伸びを記録している。

布帛製衣料品市場のベスト5は、米国（16億2,746万ドル：16%増）、EU（5億4,196万ドル：15%増）、日本（7,040万ドル：4%増）、カナダ（6,064万ドル：10%増）、アラブ首長国（5,301万ドル：1%増）で、ここでも米国、EUで 84%と圧倒的なシェアを占め、ニット衣料品同様好調に推移している。

織物類の輸出は停滞しており、全体で 2%減の 9億2,641万ドルとなっている。

品種別では、主要織物としては、合繊長繊維織物が 1%増の 3億7,129万ドルと微増、綿織物は 3%減の 3億291万ドルと微減、合繊短繊維織物は 17%減の 1億7,810万ドルとなっている。

合繊長繊維織物市場のベスト5は、アラブ首長国（8,566万ドル：21%増）、EU（4,421万ドル：3%増）、サウジアラビア（4,234万ドル：2%減）、マレーシア（3,213万ドル：23%減）、日本（2,035万ドル：13%増）の順となっている。

また、綿織物の主要市場はEU（7,113万ドル：15%増）、トルコ（2,489万ドル：23%増）、香港（2,489万ドル：28%減）、日本（2,435万ドル：12%増）、米国（2,221万ドル：15%増）で、合繊短繊維織物の主要市場は、EU（3,943万ドル：7%減）、日本（2,440万ドル：横ばい）、トルコ（1,341万ドル：113%増）、マレーシア（1,189万ドル：35%減）となっている。

一方、原料関係の輸出は好調で、まず、綿類は、スフ綿、合繊綿が共に大きく伸び、全体で 15%増の 2億311万ドルとなった。

また、糸類の輸出は、合繊長繊維系、合繊短繊維系、綿糸が共に増勢で推移し、糸全体としては 12%増の 13億4,750万ドルとなっている。

2006年1～9月のインドネシアの繊維品輸出入状況

単位:1000ドル

	輸				出				入					
	2005年実績		2006年(1～9)		2005年実績		2006年(1～9)		2005年実績		2006年(1～9)		前年比	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
繊維品合計														
原料(綿)合計	TON	8,604,098	192,741	244,912	165,747	203,114	122	115			1,303,634	100	98	
スフ綿	TON	83,434	123,953	65,892	97,212	109	106				24,700	361	296	
合繊綿	TON	63,845	75,429	56,205	68,919	132	136				117,415	70	72	
(ポリエステル)	TON	60,993	71,197	54,265	65,033	134	136				23,071	48	49	
(アクリル)	TON	383	653	320	1,261	97	203				86,079	82	80	
糸合計	TON	795,252	1,621,346	623,645	1,347,502	105	112				236,635	133	115	
人絹糸	TON	2,666	10,609	3,223	18,293	197	318				67,623	115	133	
スフ糸	TON	61,121	142,816	61,806	153,301	140	149				1,446	126	172	
合繊長繊維糸	TON	326,130	568,620	246,349	433,827	101	101				120,458	161	117	
(ナイロン)	TON	34,590	109,724	25,373	78,582	94	92				33,730	183	149	
(ポリエステル)	TON	287,017	441,386	217,082	338,933	102	103				65,619	163	110	
合繊短繊維糸	TON	280,513	589,269	209,276	468,579	98	105				8,282	171	121	
綿糸	TON	123,656	305,107	102,261	270,328	113	122				33,643	91	85	
織物合計			1,257,892		926,408		98				187,237		100	
絹織物	TON	1,739	9,815	90	683	6	8				300	18	74	
人絹織物			35,589		38,233		159				3,096		19	
スフ織物			24,771		34,022		179				1,226		26	
合繊長繊維織物			495,746		371,294		101				55,308		87	
(ナイロン)			4,130		1,680		70				5,207		70	
(ポリエステル)			145,985		129,784		128				36,198		84	
(強力糸織物)			180,151		133,685		96				4,169		46	
合繊短繊維織物			275,826		178,103		83				19,496		101	
綿織物			411,500		302,909		97				101,720		110	
毛織物	TON	439	3,404	21	246	5	7				143	143	138	
不織布	TON	12,220	27,886	11,112	26,157	121	126				2,603	144	138	
タイヤード織物	TON	21,590	88,394	16,108	65,273	95	94				33,231	9,639	106	
コーテッド織物	TON	4,822	23,552	2,898	14,291	82	83				62,045	8,217	70	
ニット生地	TON	13,532	74,540	10,604	67,732	105	122				18,540	12,433	157	
ニット製衣料			1,825,908		1,629,121		118				69,825	10,299	113	
布帛製衣料			3,073,677		2,590,831		111				23,090		127	
その他			365,992		295,659		107				30,148		130	
											112,598		117	

(注)強力糸織物は、ナイロン・ポリエステルの区分が不可

出所:インドネシア通関統計

< 輸入は3%増の13億363万ドルと微増推移 >

輸入は、原料の糸類が増加し、綿類、織物類の輸入は停滞しているが、全体として3%増の13億363万ドルと微増推移となっている。

地域別では、シェア54%を占める東アジアからの輸入は4%増の7億1,289万ドル、シェア18%の北米は5%減の2億4,020万ドル、シェア8%の大洋州は3%増の1億940万ドル、シェア7%の欧州は33%増の9,663万ドル、同じくシェア7%のアフリカは2%増の8,746万ドルとなっており、東アジア、北米からの輸入が減少、一方特に欧州からの輸入が大きく増加している。

国別の主要輸入先は、米国(2億3,763万ドル:3%減)、中国(1億9,488万ドル:16%増)、豪州(1億806万ドル:6%増)、台湾(1億166万ドル:16%減)、EU(7,605万ドル:20%増)、韓国(7,136万ドル:20%減)、日本(6,552万ドル:14%減)、インド(5,386万ドル:103%増)の順となっている。

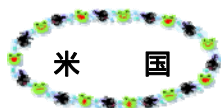
品目別では、綿関係の輸入としては、合繊綿が減少し、綿全体として2%減の6億4,310万ドルとなった。

糸関係の輸入は、綿糸が減少したが、人絹糸、ナイロン長繊維糸は大幅に増加し、全体で15%増の2億3,664万ドルと2桁の増加となった。

織物類の輸入は、太宗の綿織物は2桁の増加となったが、合繊(長・短)織物が共に低迷し、全体として横ばいの1億4,341万ドルとなった。

その他では、ニット生地は6%増の5,517万ドルと増加、一方タイヤコード織物は31%減の3,265万ドルと大幅に減少した。

衣料品の輸入は、額的には小さいが、中国品の輸入が大きく増加しており、ニット製衣料品は27%増の2,184万ドル、また布帛製衣料品は30%増の2,721万ドルと、各々大幅な伸び率を記録している。



2006年11月の繊維品輸入、微減

2006年11月の米繊維品輸入は0.3%の微減ながら、8カ月ぶりの減少となった。主要地域では、中国とインドが大幅に増加したが、パキスタン、メキシコ、カナダは何れも大きく落込んだ。特に、中国は4カ月連続の二桁増となり、全体の38%と大きなシェアを占めている。

【11月の輸入】

米商務省が発表した2006年11月の米繊維品輸入は前年同月比0.3%減の41億7,700万平方メートル換算(SME)となり、3月(0.5%減)以来8カ月ぶりの減少を記録した。このうち、

アパレルは3.1%増と6カ月連続の増加となったが、ノン・アパレル(糸、織物、その他繊維製品)は2.7%減と3カ月連続の減少となった。

地域別輸入では、5大供給国のうち、トップ供給国の中国が21.8%増の16億800万SMEと4カ月連続の二桁増となり、全体の38%と大きなシェアを占め、他の供給国を凌駕している。また、第4位供給国のインドも8.4%の大幅増となった。

米国の繊維品輸入推移

単位：100万SME、%

	ノン・アパレル		アパレル		合計	
	数量	前年比	数量	前年比	数量	前年比
2000年	16,829	16.0	16,035	13.7	32,864	14.9
2001年	16,708	0.7	16,103	0.4	32,812	0.2
2002年	21,033	25.9	17,256	7.2	38,288	16.7
2003年	23,363	11.1	18,864	9.3	42,227	10.3
2004年	26,985	15.5	19,951	5.8	46,936	11.2
2005年	28,829	6.8	22,010	10.3	50,839	8.3
1月	2,257	5.0	1,645	8.5	3,902	6.4
2月	2,206	17.3	1,760	2.2	3,965	19.4
3月	2,340	4.9	1,728	7.0	4,068	5.8
4月	2,341	1.5	1,549	11.7	3,890	4.4
5月	2,544	8.3	1,704	24.2	4,248	14.2
6月	2,488	1.4	2,065	19.5	4,553	7.1
7月	2,353	0.1	1,990	7.3	4,344	3.3
8月	2,593	8.2	2,159	13.3	4,752	10.4
9月	2,487	12.0	2,127	8.9	4,614	9.6
10月	2,565	13.8	1,916	6.3	4,481	9.3
11月	2,419	9.8	1,770	8.3	4,190	9.2
12月	2,237	5.7	1,594	5.9	3,831	5.8
2006年	27,446	3.2	20,854	2.2	48,300	2.8
1月	2,504	10.9	1,698	3.2	4,201	7.6
2月	2,153	2.5	1,587	9.8	3,740	5.7
3月	2,362	0.9	1,687	2.4	4,049	0.5
4月	2,515	7.5	1,493	3.6	4,008	3.1
5月	2,706	6.2	1,669	2.1	4,375	2.9
6月	2,682	7.9	2,071	0.3	4,753	4.4
7月	2,520	7.1	2,032	2.0	4,551	4.8
8月	2,654	2.4	2,316	7.3	4,971	4.6
9月	2,435	2.1	2,324	9.2	4,759	3.1
10月	2,562	0.1	2,155	12.5	4,716	5.2
11月	2,353	2.7	1,824	3.1	4,177	0.3

注：前年比は増減、 は減少。 出所：米商務省(DOC)

【1～11月の輸入】

2006年1～11月の米繊維品輸入は483億SMEで前年同期比2.8%増となり、うち、ノン・アパレルが274億4,600万SMEで3.2%増、アパレルが208億5,400万SMEで2.2%増と

なった。

1～11月の主要地域別輸入状況は、以下の通り。

主要地域別輸入では、ビッグ4(中国、韓国、台湾、香港)及びアセアン、更に「その他地域」の中のパキスタン、インド、バングラデシュなどの東アジア諸国からの輸入が活発に推移し、一方米近隣のNAFTA(北米自由貿易協定)パートナー(メキシコとカナダ)及びCBI(カリブ海沿岸諸国)は低迷している。

- ビッグ4からの輸入は8.8%増で、全体の43%と主要地域の中では最大のシェアを占めている。このうち、トップ・サプライヤーの中国は米政府の輸入規制により前年同期の44.9%増から9.9%増へと減速しているが、それでも全体の35%と大きなシェアを占めている。

その他では、韓国と台湾は織物を中心にそれぞれ6.8%、9.5%の増加となった。他方、香港は、主力の衣料品のみならず、織物とその他繊維製品も低調に推移し、12.6%の大幅な減少となった。

アセアンからの輸入は13.8%増と、主要地域の中では最も大きく伸びている。このうち、ベトナム(23.6%増)、カンボジア(20.8%増)、インドネシア(18.8%増)、フィリピン(10.1%増)の主要国は何れも衣料品を中心に二桁増となった。一方、タイは、衣料品は伸びたが、織物とその他繊維製品の不調で2.2%減となった。なお、アセアンからの輸入では、衣料品が全体の74%を占めている。

NAFTAパートナーからの輸入は低迷し、衣料品とその他繊維製品を中心とするメキシコは11.3%減、糸と織物主体のカナダは17.9%減となり、両国合わせて14.2%減となった。

また、CBIからの輸入も8.7%減と低調であり、そのうち、エルサルバドルが17.5%減、ドミニカ共和国が18.7%減、ホンジュラスが8.4%減と、主要国は何れも大きく落込んでいる。なお、CBIからの輸入は、アパレルが97%と殆どを占めている。

EU(15カ国)からの輸入は、主力のイタリーとドイツが共に織物の不振でそれぞれ16.6%、14.3%の減少となり、全体で10.1%減となった。

上記の主要地域に含まれない「その他地域」からの輸入では、バングラデシュが14.5%増、インドが13.5%増、パキスタンが9.5%増と大幅な増加となった。これらの東アジア諸国は、いずれも「ポスト・クォータ」のメリットを活かして、衣料品とその他繊維製品を中心に対米輸出を活発に推進している。

米国の繊維品輸入推移（主要地域・国別）

単位：100万SME、%

	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年 1 - 11月	前年 同期比
全世界	32,812	38,288	42,227	46,936	50,839	48,300	2.8
NAFTA	7,558	7,722	7,238	7,373	6,892	5,505	14.2
メキシコ	4,290	4,335	3,926	4,101	3,883	3,202	11.3
カナダ	3,268	3,387	3,312	3,272	3,009	2,303	17.9
CBI	3,704	3,830	4,046	4,168	4,169	3,501	8.7
ホンジュラス	1,032	1,099	1,165	1,209	1,262	1,059	8.4
エルサルバドル	768	817	895	895	897	680	17.5
ドミニカ共和国	773	743	758	772	725	545	18.7
ビッグ4	5,911	9,348	12,633	16,128	20,595	20,750	8.8
中国	2,211	4,963	8,288	11,662	16,766	17,110	9.9
韓国	1,383	2,032	2,097	2,301	2,028	1,969	6.8
台湾	1,224	1,391	1,356	1,302	1,083	1,087	9.5
香港	1,092	962	892	862	721	584	12.6
アセアン	4,390	4,766	4,980	5,140	5,145	5,363	13.8
タイ	1,308	1,316	1,098	1,114	1,052	945	2.2
インドネシア	1,165	1,215	1,151	1,275	1,354	1,490	18.9
フィリピン	916	817	794	711	643	646	10.1
ベトナム	33	358	827	905	950	1,076	23.6
カンボジア	389	474	561	673	740	807	20.8
EU（15カ国）	1,868	2,055	2,059	2,063	1,912	1,579	10.1
イタリー	521	518	533	462	385	297	16.6
ドイツ	457	551	484	479	453	356	14.3
その他	9,381	10,567	11,272	12,064	12,126	11,602	3.4
パキスタン	2,189	2,537	2,690	2,970	3,291	3,326	9.5
インド	1,250	1,545	1,666	1,915	2,335	2,456	13.5
バングラデシュ	1,169	1,150	1,110	1,109	1,314	1,393	14.5
トルコ	871	1,068	1,026	982	844	673	14.9

2006年12月の米大手小売店販売、3%増

米国の国際ショッピング・センター協会（ICSC）が纏めた「米チェーン・ストア販売動向レポート」によると、米大手小売店59社の2006年12月の売上高は前年同月比（既存店比、以下同じ）3.1%増となり、前月の伸び率（2.5%）を上回った。クリスマス商戦が行われた11月と12月の合計の伸び率は2.8%で、前年同期（3.6%）よりも鈍化した。2000年以降の

7 年間では 3 番目の高い伸び率となった。また、2006 年年間の伸び率は 3.7%で、2005 年 (3.8%) とほぼ同水準であった。

エコノミストは、12 月の小売販売について、「消費者はクリスマス商戦が終わる 12 月末までショッピングに走り回っていたようであり、12 月の売上高は事前の予想(2.5%増)を上回った。また、クリスマス商戦が展開された 11 月と 12 月の 2 カ月合計の伸び率は予想(2.5~3.0%)の範囲内に収まっており、2006 年のクリスマス商戦はまずまずの成果をあげたと言えよう」と分析している。

12 月のストア・タイプ別販売では、百貨店は 3.6%増、ディスカウント・ストアは 2.3%増と共に堅調であったが、衣料品専門店チェーンは暖冬による冬物衣料の不振で 0.9%減となった。

米大手小売店の売上高の伸び率推移

単位；%

年 月	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006
1	5.7	4.8	5.2	1.8	5.9	3.6	5.0
2	6.0	3.1	6.2	0.9	6.8	4.9	3.2
3	2.1	1.7	6.4	-0.2	6.8	4.1	1.9
4	7.9	3.8	1.6	3.1	3.7	2.2	6.6
5	5.0	1.5	3.4	2.0	5.4	2.9	4.5
6	3.7	2.8	5.1	2.4	2.6	5.2	2.6
7	4.4	3.4	2.6	4.2	3.8	3.6	3.9
8	4.2	3.6	1.6	4.9	1.3	3.6	2.9
9	4.3	0.9	1.5	5.8	2.4	4.0	3.8
10	3.8	2.3	3.1	2.4	4.1	4.4	3.0
11	4.0	2.1	0.0	3.3	1.7	3.5	2.5
12	0.7	2.2	1.0	4.3	2.7	3.2	3.1
年間平均	4.0	2.6	3.1	2.9	3.8	3.8	3.7

注：伸び率は前年同月比（既存店比）の増減を示す。

12 月のストア・タイプ別販売状況は、以下の通り。

大手百貨店の 12 月の販売は、一部を除き、全般的に順調に推移した。特に、高級百貨店は、富裕層の旺盛な購買に支えられて、サク스가 11.1%増、ノードストロムが 9.0%増、ニーマン・マーカスが 7.1%増と、何れも大幅に売上げを伸ばした。

このうち、サクスは、商品としては、女性用のコンテンポラリー、モダン・コレクション、“ゴールド・レインジ”、デザイナー・ブランドの各アパレル、女性用クラシック・スポーツウェア、男性用の高級スポーツウェアとアクセサリがベスト・セール品目であった。

また、ニーマン・マーカスは、地域では中西部、テキサス、ニューヨーク・シティ、商品では女性用衣料品（特に、ファッション・デザイン・アパレルとイブニング・ウェア）男性用服飾品の販売が好調であった。

一方、中級百貨店は斑模様で、フェデレーテッドは 4.4%、コールズは 3.0%、J.C.ペニーは 2.6%のそれぞれ増加となったが、ボン・トン・ストアーズは 5.8%減、ディラードは 5.0%減と前年を下回った。

このうち、コールズは、「12 月の販売増は、最後の週の駆け込みショッピングと商品券

引き換え購買を含む後半 2 週間の好調な販売が冬物商品の不振を相殺したことによる」と説明している。また、J.C.ペニーは「12 月の販売は、地域では西部と北東部がベストであった。商品では、季節外れの暖かい天候で冬物衣料が低調であったが、“レッドボックス・ギフト”と名づけたギフト商品は好調であった」と発表している。

大手衣料品専門店チェーンの 12 月の販売は、ここ 5 年で最も暖かい天候の影響で、冬物衣料が振るわず、多くのストアが苦戦した。

衣料品専門店チェーンのうち、若者向け専門店では、アメリカン・イーグル・アウトフィッターズが 13.0%増、リミテッド・ブランドが 4.0%増と伸びたが、エアロポステールは 1.7%の微増にとどまり、ギャップは 8.0%減、パシフィック・サンウエアは 3.2%減、アバークロンビー & フィッチは 1.0%減と落込んだ。

このうち、大幅増となったアメリカン・イーグル・アウトフィッターズについて、小売アナリストは「同社の大幅増は、中核商品のセーター、ジーンズ、フリース、ニット

製品等が牽引したものである。これは、同社のファッション商品が 2006 年の当たり商品であったことを示している」と指摘している。

また、リミテッド・ブランドは、傘下小売店では、リミテッド・ストア（女性用衣料品店）が 10%減、エクスプレス（男性・女性用衣料品店）が 5%減となったが、ビクトリアズ・シークレット（女性用下着店）が 10%増、バス・アンド・ボディワークス（バス用品店）が 5%増となり、衣料品部門の減少を相殺した、

一方、衣料品専門店チェーン最大手のギャップは、傘下ストアのうち、バナナリパブリック（高級志向の衣料品店）が 2%増となったが、ギャップ・ストア（ティーンエイジャー向け主体の衣料品店）は 9%減、オールドネイビー（低価格路線の衣料品店）は 10%減と大幅な減少となり、全体で 11 カ月連続のマイナスとなった。

2006 年 12 月の米主要小売店の販売状況

単位：100 万ドル、%

小 売 店 名	売 上 高	
	前年同月比	
<百 貨 店>		
ボン・トン・ストアーズ	642	- 5.8
ディラード	1,226	- 5.0
フェデレーテッド	4,997	4.4
J.C.ペニー	2,955	2.6
コールズ	2,761	3.0
ニーマン・マーカス	682	7.1
ノードストロム	1,271	9.0
サクス	444	11.1
<衣料品専門店チェーン>		
アバークロンビー & フィッチ	604	- 1.0
アメリカン・イーグル・アウトフィッターズ	522	13.0
アン・テラー・ストア	274	- 5.3
ドレス・バーン	160	5.0
エアロポステール	267	1.7
ギャップ	2,340	- 8.0
リミテッド・ブランド	2,027	4.0
パシフィック・サンウエア	251	- 3.2
<ディスカウント・ストア>		
ターゲット	9,254	4.1
TJX	2,500	6.0
ウォル・マート	43,996	1.6

キャリアウーマン向け衣料品専門店チェーンの販売では、ドレス・バーンが 5.0%増と順調に伸びたが、アン・テラー・ストアは 5.3%減となり、明暗が分かれた。

このうち、アン・テラー・ストアの首脳は「12月の販売減は、セーター、アウターウェア、アクセサリー等の冬物商品が伸びなかったことによる。それでも、通勤用衣料品（特に、スーツ）や晴れ着用のセパレート・アパレルは好調であった」と発表している。

大手ディスカウント・ストアの12月の販売は、ターゲットが 4.1%増、TJXが 6.0%増と堅調に推移したが、ウォル・マートは 1.6%の若干増となった。

このうち、米小売店最大手のウォル・マートは、衣料品は低迷したが、食料品や家電品が伸びて、全体としては若干増ながら、11月のマイナス（0.1%減）からプラスに転じた。

組合関係の会議と催事

【2007年1月】

輸出入

・「2007年新年賀詞交換会」(関西・関東・中部地区)を開催。

輸出

・関西の繊維7団体の新年名刺交換会が開催。
・平成18年度第4回「組合運営に関するタスクフォース」を開催。

輸入

・各委員会で2007年品目別輸入見通し策定と来年度事業等を検討。

4日(木)

輸出(大阪) 関西の繊維7団体の新年名刺交換会が帝国ホテル大阪にて開催された。参加者は約430名であった。

5日(金)

輸出入(大阪) 輸出組合・輸入組合共催で「2007年新年賀詞交歓会(関西地区)」が輸出繊維会館 BM ホールで開催され、岩竹副理事長の挨拶の後、近畿経済産業局・高畑通商部長より祝辞、中西副理事長の音頭で乾杯が行われ、両組合員ほか250名が出席、歓談された。

9日(火)

輸出入(東京) 輸出組合・輸入組合共催で「2007新年賀詞交換会(関東地区)」が飯野ビル「キャッスル」で開催され、山本理事長の挨拶の後、経済産業省製造産業局・内山次長より祝辞があり、大塚副理事長の音頭で乾杯が行われ、両組合員ほか130名が出席、歓談された。

10日(水)

輸出入(名古屋) 輸出組合・輸入組合共催で「2007年新年賀詞交歓会(名古屋地区)」が名古屋観光ホテルで開催され、豊島理事の挨拶の後、名古屋税関・杉山業務部長より祝辞があり、三井物産(株)中部ライフスタイル事業部・鎌田部長の音頭で乾杯が行われ、両組合員ほか110名が出席、歓談された。

15日(月)

輸出入(東京) 日本繊維産業連盟の常任委員会、役員総会、懇親会が東京プリンスホテルで開催され、京浜地区の役員が出席された。

17日(水)

輸入(東京) 独立行政法人農畜産業振興機構・北野特産振興部長を講師に迎え中国のシルク事情に関する「報告会」が行われた後、経済産業省繊維課通商室・木下課長輔佐臨席のもと「第15回絹委員会」(川村委員長)が開催され、絹関係品目2007年輸入見通し策定 国内シルク業界の現況 インドの中国産絹織物 AD 関税賦課

中国の蚕糸・絹業の改革、についてそれぞれ審議及び説明が行われた。

19日(金)

輸入(大阪) 「第92回寝具インテリア委員会」(吉田委員長)が開催され、2007年じゅうたん輸入見通し策定 「インテリア・ライフスタイル展」出展について審議を行い、続いて情報交換が行われた。

22日(月)

輸入(東京) 「アパレル委員会正副委員長会議」(尾川委員長)が開催され、2007年アパレル輸入見通し策定 2007年事業計画、について審議と意見交換が行われた。

24日(水)

輸入(東京) 「第105回欧州北米専門委員会」(細見委員長)が開催され、委員交替最近の輸入動向 2007年毛織物輸入見通し策定、について審議が行われた。

25日(木)

輸入(大阪) 「第15回化合織委員会」(清水委員長)が開催され、2007年化合織品目輸入見通し策定 情報交換が行われた。

29日(月)

輸入(大阪) 「第84回中国アジア専門委員会」(小関委員長)が開催され、「タイ・カンボジア調査ミッション」報告書の内容について説明と審議が行われた後、情報交換が行われた。

31日(水)

輸出(大阪) 平成18年度第4回「組合運営に関するタスクフォース」(三浦議長)が輸出組合会議室にて開催され、輸出組合の平成19年度の事業、新繊維ビジョン策定に関する輸出組合の基本方針について検討が行われた。

2月のスケジュール(2月1日現在)

1日(木)	輸出	(大阪) あずさ監査法人との打合せ
	輸入	(東京) 「第5回組合運営に関するタスクフォース」
8日(木)	輸入	(東京) 「第143回企画委員会」
9日(金)	輸出	(大阪) タイ国政府貿易センター大阪所長との会合
19日(月)	輸入	(東京) 「貿易実務の基礎-実践編」研修会(関東地区)
22日(木)	輸入	(名古屋) 「貿易実務の基礎-実践編」研修会(中部地区)
23日(金)	輸入	(大阪) 「貿易実務の基礎-実践編」研修会(関西地区)
28日(水)	輸入	(大阪) JICA 国別「ルーマニア貿易振興」研修員来所

- 輸入組合各委員会の 2007 年輸入見通し策定と 2006 年度委員会活動報告 -

日本繊維輸入組合

当組合は 2 月 8 日(木)、第 143 回「企画委員会」(塘委員長)を開催し、昨年末より各委員会で検討の 2007 年輸入見通しと 2006 年度委員会活動について各委員長より報告があった。以下はその報告概要である。尚、本報告をもとに 2007 年の繊維製品全体の輸入見通しは集計の結果、3 兆 5,000 億円(対前年実績比 104.1%)と策定された。

1. 綿委員会(宮本 副委員長)

昨年は戦後最長と言われる我国の景気回復により、衣料消費も明るい兆しがでてきましたが、綿糸、綿織物の輸入については、縫製業の海外移転、生産の海外移管により国内マーケットの縮小傾向が依然続いておりまして数量ベースで 3 年連続の減少となりました。

まず綿糸ですが、パキスタン、中国等国内需要旺盛な海外紡績からのオファー価格の高止りや、我国綿糸相場下落により 2 月以降 6 ヶ月続けて 2 万梱台の輸入が続くなど、低調に推移しまして年間では 1980 年以来の低水準輸入となりました。

また、綿織物についても二次製品での輸入増もさることながら全体の 4 分の 3 を占める中国が欧米向けをはじめとする輸出が好調な為、日本向け輸出での柔軟性が低下したこともあり、1985 年以来となる 5 億 SM を下回る記録的に低調な輸入となりました。

今年の見通しであります。景気は今年も堅調に推移すると思われませんが、綿糸、綿織物の輸入環境は昨年と大きく変わっておらず、二次製品輸入の増大や産地の疲弊により国内マーケットに回復の兆しはみえず厳しい状況は続くものと思われ。

まず、綿糸については断続的な我国紡績設備の減少による供給減があるものの、需要減による先行き不透明感から依然国内市況が回復しておらず、また海外紡績の日本向け価格に柔軟性がなくなり、輸入は前年を更に下回るものと思われ、数量ベースで 70,000 トン(385,000 梱)前年比 4.6%減、金額ベースで 295 億円、同 5.0%減を予想しました。

次に綿織物ですが、主用途の寝装品の不振、海外での一貫生産の定着、我国染色工場の縮小、撤退更には中国品の値上げによる利益率の低下もあり、数量ベースで 4 億 2,700 万 SM、前年比 7.1%減、金額ベースで 381 億円、同 7.9%減を予想しました。

最後になりましたが、人織(短)織物ですが、昨年は主力商品の T/C 織物が、ユニホーム業界の改善、スフ織物もインドネシアから輸入が好調であったことから、全体では数量・金額とも増加となりましたが、今年の見通しは、スフ織物は近年比較的安定した輸入が行われている

ことから前年並みを見込みましたが、T/C織物は原油高によるコストアップ、更には人民元高で採算的に厳しいことから2桁の減少が予想され、人織(短)織物全体では数量ベースで2億8,800万SM、前年比4.8%減、金額ベースで171億円、同6.2%減を予想しました。

次に、委員会活動について申し上げます。

今年も四半期毎に開催される日本紡績協会、日本綿スフ織物工業組合等、主要関係団体による「綿製品懇談会」で検討される、需給見通しのための輸入見通しの策定及び情報交換を行うべく、委員会を適宜開催して参りたいと思います。

なお、昨年は5月に来日したインドのTEXPROCIL(COTTON TEXTILES EXPORT PROMOTION COUNCIL)のミッションの受入れに対し懇談会並びに歓迎夕食会等寝具インテリア委員会と共同で開催、滞在期間中の企業訪問、関係団体の表敬等協力を行いました。

2. 絹委員会(川村 委員長)

昨年の3月と8月に呉服小売業の2社が、負債額合わせて480億円規模の大型倒産に端を發して、高額商品の販売方法のあり方が社会問題化するにいたりました。結果、昨年の後半以降、糸、織物、染漬し、整理加工まで通常の荷動きがとまり、先が見通せない状況が続いております。

そんななかで、2006年の輸入実績をベースとしての2007年の輸入見通しであります。まず、絹糸は、国内の主要な機屋産地が生産調整による大幅な減産になっており、また、主要国の原料価格高騰を背景に数量で、昨年対比9%減の2,600トン、金額では、前年対比5.8%減の100億円を見込みました。

次に絹織物であります。国内の和装用の需要減は否めず、小幅織物は大幅な輸入減になると見込まれますが、洋装用プリント、他の繊維と交織、混紡などの複合素材をテキスタイル卸商などが積極的に扱い始めたことから輸入増に転じておりますので数量で、前年対比6.4%減の1,200万sm、金額では、汎用性のある染め、素材開発もあり、前年対比5.8%増の100億円と見込みました。

次に、委員会活動ですが、主に中国の粗原料価格の高騰による内外の影響を懸念しての情報収集、特に中国商務部、紡織品進出口商会の幹部と国内の蚕糸、絹業団体との情報交換会への参画、また、農畜産業振興機構の特産部長を委員会に招き、講演、情報交換などを行ないました。

本年度の事業としては、太宗を占める中国の原料事情が大きく変化してきていることから、日本への継続的、安定的な輸入が困難になるのではないかととの声があることから、必要に応じて、事業を進めていきたいと考えております。

3. 化合織委員会(清水 委員長)

昨年の当委員会所管の化合織糸、織物の輸入は、ポリエステル、ナイロン糸等の人織(長)糸が

数量ベースで前年対比 4.0%の増、ポリエステル紡績系、スフ系の人織(短)糸が同 3.6%の増加、史上最高を更新しているポリエステル織物が中心の人織(長)織物は 4.6%増となる等軒並みプラスとなりました。

これは、世界的な原油高にもかかわらず、輸入商品の採算性、品質の向上、我国メーカーの設備、生産の縮小、撤退、更には輸入商品の産業資料向け需要の開拓によるものと思われます。

2007 年の見通しであります。原油価格は軟化してきているものの依然高止りしており、更には製品輸入の定着、為替の円安基調等、輸入環境は厳しいものがあります。まず、人織(長)糸ですが、主力のポリエステル糸は、国内産地の廃業、縮小傾向は依然続いているものの、レギュラー系の海外移管による輸入の定着、資材向け需要の伸長により、前年並みを予想。ナイロン系については、衣料用もさることながら、住宅用、車両用中心に産業用途が堅調、国内生産のない人絹系同様増加を見込み、人織(長)糸全体では、数量ベースで 137,200 トン(前年比 101.0%)、金額で 476 億円(同 104.0%)のプラスを予想しました。

人織(短)糸であります。主力商品の T/C、T/R 系のポリエステル紡績系、ガムテープ用のスフ系は、国内生産の減少傾向が続いているものの需要は安定していることからそれぞれ増加を見込み、マイヤー毛布用のアクリル紡績系は製品輸入の定着、更には暖冬の影響もあり減少するものと思われ、人織(短)糸全体では、数量ベースで前年並みの 46,300 トン、金額で 182 億円(前年比 103.0%)を予想しました。

次に、人織(長)織物であります。主力商品のポリエステル織物は、国内生産の減少傾向に歯止めがかからないことと、裏地など衣料用とカーテン等、インテリア関連向け需要が堅調であること等から 1 億 SM の大台の輸入が予想され、ナイロン織物も前年の需給調整の進展もありタフタ中心に増加、ポリプロピレン等その他織物も我国で生産されていないことと、近年着実に伸びてきていることから増加を見込み、人織(長)織物全体では、数量ベースで史上最高の 1 億 7,000 万 SM(前年比 102.8%)、金額で 175 億円(同 107.8%)の増加を予想しました。

最後に委員会活動でご座居ますが、昨年は最近の製品輸入の定着化、更にはメーカー、ユーザーが自ら輸入する等輸入構造の変化もあり活発な委員会活動は行われませんでした。今年も委員会の再編も含めた活性化に取り組んでいきたいと思っております。

4 . アパレル委員会(尾川 委員長)

1. 2006 年の衣類輸入状況

昨年の衣類輸入は、ニット、布帛、衣類・付属品類の合計で、約 2 兆 6,480 億円、対前年比 11.5%増、輸入数量はニット・布帛の衣料合計で、37.1 億枚(同、4.2%増)と、金額、数量とも過去最高を更新しました。

中国(金額 83.1%で 1 上昇)は一極集中堅持。以下、金額順に、イタリア(4.2%)、ベトナム(2.8%)、韓国(1.4%)、タイ(1.1%)、米国(1.1%)、フランス(0.8%)、インド(0.7%)となっています。

昨年の日本市場は、景気の実感なき拡大局面が続く中、中流社会から階層社会へと格差社会が

現象化し、ファッションの二極化がさらに進んだ年となりました。

百貨店（10年連続前年割れ）や量販店（15年連続前年割れ）の衣料品販売額は依然として低迷する一方で、首都圏・ファッションビル（駅ビル等）や、ショッピングセンター（SC）、アウトレット、ライフスタイルセンター等の商業施設の増設、ネット・メディア通販では携帯電話の急伸が現象化（「日本のリアルクローズ」を集め、携帯サイトでその場で注文できるショーを開いた東京ガールズコレクションの盛況）し、欧米のビッグブランドは大型旗艦店の出店や移転・改装で競合し、M&A（企業の合併・買収）やファンドの参入もあり、資本・業務提携など業界再編も本格化しました。

こうした業界・業態間や市場の変動を背景に、アパレル、専門店、SPA（製造小売業）等の、OEM（相手先ブランドによる生産）を中心に、ニット製衣類は前年比4.1%増、布帛製衣類は同4.9%増となりました。

2. 2007年の衣類輸入見通し

2007年の衣類輸入見通しは、アパレル委員会の輸入見通しアンケート結果を基に、引き続き増加基調にあると予測し、衣類合計輸入額は約2兆7,600億円、前年対比、4.2%増と策定いたしました。

なお、景気拡大の持続と、家計への所得還元への期待も、先行き増税感もあって個人消費の拡大は不透明であります。

3. 委員会事業について

アパレル委員会では、世界の衣料品貿易における環境、市場構造の変化に対応し、広く海外のファッション動向や・生産・供給先を調査すると共に、日本市場を正しく紹介し、アパレル輸入の中長期的な安定と発展を図ってゆく方針のもとに、海外調査（ミッション派遣）事業を委員会活動の一環として実施してまいりました。

昨年（2006年度）は、アイルランドとスコットランド（シェットランド）に、アイルランド政府商務庁、スコットランド国際開発庁の協力のもとに実施いたしました。

その成果は、すでに昨年夏の企画委員会でさわりを報告し、調査報告書として組合員の皆様にご送付申し上げております。

なお、報告書は日本繊維新聞により10回に亘り（06/8/10-29）アイルランド、スコットランド訪問記として紹介を受けました。

今年（2007年度）も、この基本方針の下に積極的に委員会活動を行うこととし、海外調査（ミッション派遣）事業につきましては、派遣先・実施時期（候補は欧州方面・6月頃～）を現在検討中であります。

（消費の二極化が顕在化する中で、日本市場での良質な衣料製品需要の高まりに備え、ケルト・北欧文化圏のアイルランドとスコットランド（シェットランド）を訪問し、セーター等を中心に“本物”発祥の地における、感度の高い製品作りの再認識と、現地の生産実情等を改めて調査した。

昨今の急速な国際分業の進行、特に中国の台頭により、伝統産業が厳しい価格競争に巻き込まれ苦戦を余儀なくされている現実に、上質志向の限られた顧客に対し、本物の味わいと伝統的手法による小ロット生産を武器に、肌理細かい営業活動を行う事で生き残りを賭けて奮闘している中小規模の現地メーカーの姿を目の当たりにし、自然な共感を覚えると共に、「洋服の原点」でありながら、その対極にある厳しい現実との対比を直視する事で、衣料品ビジネスの面白さと難しさを改めて認識する機会を持つ事ができた。

各訪問先で活発な意見交換がなされ、我々にとっての新たな発見も数多くあり、大変有意義な成果が得られたと団員一同自負している。(報告書、尾川団長の「はじめに」より抜粋、要約)

5. 寝具・インテリア委員会(吉田委員長)

1. 2007年輸入見通しについて

当委員会の主要取り扱い品目である敷物類の輸入見通しについて、去る1月19日開催の第91回委員会において、2006年の輸入実績見込みと併せ検討いたしました。

2006年のカーペットの輸入状況について説明

輸入カーペットを取り巻く背景としては、新設住宅着工件数と自動車延べ生産台数の昨年対比での増加、または、専門チェーン店などの全国規模の出店など追い風の要因はあるものの、原油価格の高止まりによる原材料のコスト高や天候不順などに加え、高価格帯の商品については依然として消費意欲が停滞していることから、2006年の輸入状況は2005年に比べて伸び率が鈍化し、数量ベースでは7.5%増の76,292千SM、金額ベースでは9.2%増の60,474百万円となりました。

伸び率は05年が数量で前年比16.1%増、金額が11%でありましたから伸び率の低下がアンバランスに見えますがこれは06年で中国からの輸入数量が前年の31.7%増に対し15.4%と伸び悩んだ事と一方為替レートの円安変動により金額が下支えされたものと推測されます。

輸入カーペット商品の構成は、金額ベースで、手織りカーペットが10%、機械織りカーペットが40%、タフテッドカーペットが40%、フェルト製カーペット等が10%となっております。

以下、主要カーペットについてですが、

機械織りカーペットについては、合織製ウィルトンカーペットのかつての主要供給国であるベルギーの輸入シェアは数量ベースで10%ほどにまで落ち込み、輸入は数量ベースで微減、金額ベースでは横ばいに推移し、また、全体の85%ほどのシェアを占める中国からの専門チェーン店や通販等向けの安価品の輸入が引続き増加に推移したと推測されます。

機械織り綿製カーペットについては、インドからの輸入は在庫調整などから10%ほどの減少となり、代わりに中国からの安価なラグやバスマットなどが輸入され前年同期比、数量ベースで13%、金額ベースで25%と増加しました。

タフテッドカーペットにおいては、金額ベースで約 60%のシェアの建築用途と約 30%のシェアの自動車用途に分かれます。

建築用途については中国やタイなどからの輸入を中心にコントラクト分野の好況から大幅に供給され、また、中国を中心に専門チェーン店や通販向けのホットカーペットにも使用可能な安価な簡易敷物の輸入が好況に推移しました。

自動車用カーペットについては、原油高から生産コストの増加や自動車メーカーの政策などによる中国への生産拠点のシフトにより、主要供給国であったタイ、ベトナム、インドネシアからの輸入が減少に推移し、中国からの輸入が大幅に増加しました。

自動車用カーペットは、用品としてのオプションカーマット用と床部材として取り付けられる生産ライン用の2つに分かれており、中国等のアジア諸国から輸入されるものはオプションカーマット用のピースもので、各車別にカットされたものとなっている。関税がフリーであることから増加傾向に推移しています。

一方、生産ライン用はロール状で主に米国から輸入されているが、国内産のものと比較すると品質が劣り、輸送コストなど余計に掛かることから国内産が健闘しているのが現状です。

2007年の輸入見通しについては、2006年の輸入環境と大きな変化はないものと見込み、内外生産品の中国へのシフトは引続き旺盛となり中国からの増加傾向は続く模様と思われるが、人民元含めた為替変動や増値税還付率減などの要因により若干の伸び率の鈍化も予想され数量ベースで前年対比 107.0%の 81,600 万 SM、金額ベースで前年対比 112.10%の 678 億円と策定。

2. 委員会活動について

(1) 2006 年度活動状況

昨年 6 月 14 日(水)から 16 日(金)の 3 日間、東京ビッグサイトに於いて開催された「インテリアライフスタイル 2006」に、当委員会がブースを設け、高機能寝装品、高機能タイルカーペット、エグゼクティブデスク&チェアに付随する室内品などを出品いたしました。

出品各社の意見としては、「ライフスタイル全般の展示会なので日常では係わる機会の少ない企業とコンタクト出来る」、「新商品をタイミングよく同展示会にて発表できる」、「多大な宣伝効果がある」などと好評価を得、2007 年度についても是非とも出品したい旨、組合としても是非配慮願いたいとの要請がありました。

(2) 2007 年度活動計画

2005 年より継続出展している「インテリアライフスタイル展」への出品について当委員会メンバーから好評価を得たことにより、本年 6 月 6 日（水）から 8 日（金）の 3 日間、東京ビックサイトにて開催される同展示会に当委員会として参加、出品する予定で計画しています。

6. 黄麻専門委員会（塩田 委員長）

1. 2007 年輸入見通し

昨年 12 月 6 日（水）に開催しました委員会において、輸入見通しを策定いたしました。当黄麻専門委員会の取扱い品目は、配布資料「2007 年繊維製品輸入見通し案」にある黄麻織物のほかに糸、紐、綱、包装用袋となっております。

2006 年の黄麻製品の輸入実績は、先日発表された速報ベースで、数量 14,535 トン（前年比 84%）、金額 1,671 百万円（前年比 90%）数量、金額ともに減少しました。カーペット用糸及び基布、米麦用麻袋の販売不振による在庫調整が主な要因と考えられます。

2007 年の輸入見通しにつきましては黄麻製品全体として在庫調整も終了するとの期待感から、数量 14,370 トン（前年比 99%）金額 1,650 百万円（前年比 99%）数量、金額ともに微減の輸入見通しを策定いたしました。

2. 主な委員会活動

次に委員会活動としましては、紡績メーカーと共同で、環境と共存する繊維資材として黄麻製品の新規用途の開発及び販売促進を目的とする活動を続けております。昨年は委員会を 4 回開催し、事業の検討や生産地の状況等の情報・意見の交換を行いました。また、約 100 項目にわたるグリーン調達関連物質の分析を財団法人化学物質評価研究機構に依頼し、黄麻製品にはカドミウム、鉛、水銀などの環境に負荷を与える物質は含有していないとの証明書を取得いたしました。

さらに、ジュート&ケナフの HP の運営を継続し、黄麻製品の PR に努めました。

3. 2007 年度の委員会活動

本年も引き続き紡績メーカーと共同で、黄麻製品の新規用途の開発・市場の開拓・PR 事業を中心とした委員会活動を行っていきます。

具体的には HP の継続、エコ製品展示会への出展・視察および海外市場への調査ミッション派遣等を今後の委員会で検討の上実施していきたいと考えております。

7. 中国・アジア専門委員会（汪 副委員長）

（昨年のアジア諸国からの輸入状況）

・昨年中国を主体としたアジアからの衣類の輸入状況を振り返りますと、我が国の厳しい衣料消費環境が続く中で、中国からの衣類輸入は前年比で、トンベースが多少増加、円金額

ベースで 10% 強増加しました。

・ 昨年は衣類輸入全体のうち数量で 9 割（1～12 月実績ベースで 91.6%）、金額で 8 割（同 83.1%）を占める中国は、人件費等のコストアップ、人民元の上昇傾向、工場での労働者の雇用難などリスクが増幅して懸念されましたが、輸入の趨勢は衰えをみせず、中国よりの付属品を含む衣類輸入総計は数量で 100 万トン（前年比 104.5%）、金額で 2 兆 2,016 億円（同 112.9%）、尚、着数で 34.2 億着（同 104.9%）でした。これは我が国の縫製工場の多くが既に中国へ移転しており対日衣類輸出に携わっていること、また、中国系アパレル企業への OEM 等での生産委託輸入も増加していることなどが構造的背景としてあります。併せて、中国は我国にとって多品種・小ロット・短納期などの日本市場の要求に対応できる供給国であることが挙げられます。

・ 中国以外のアジア諸国では（中国に比し数量、金額とも小さく、大きな隔たりがありますが）、ベトナムが数量、金額とも増加したほか、韓国が減少、タイが横ばい、インドが多少増加しました。

・ 現在、中国への極端な一極集中化が進む現状下で、その見直しからチャイナプラスワンを模索する動きがありますが、現状では中国は我国に対する最大の衣類供給国として、他の国を大きく引き離してその重要度がますます増しております。

・ 尚、本年又は今後の中国の懸念材料としては

沿海部を中心とした人件費等のコストアップ

更なる人民元の元高推移

熟練工や一般ワーカーの確保難

などが挙げられますが、我国の繊維品輸入で中国は圧倒的な供給国としての位置づけは変わらないものと思われます。

更に最近の中国の動向として、沿海部の中国系繊維企業が安徽省を中心とした中部地区へ生産基地をシフトする動きがあり、当委員会としてもこの動向を注視しています。

（ 昨年の委員会活動について ）

・ 次に昨年の当委員会の活動概要ですが、昨年は委員会を 4 回開催し、その他に打合せ会合等を開催しました。当委員会ではアジア諸国よりの衣類輸入の各社の取組み状況、国内市場動向、中国を中心としたアジア諸国の現状や、また、委員各社が抱える問題点などについて、毎回、その時々状況を踏まえて、幅広い意見交換を行っています。昨年は具体的には 中国の増値税輸出還付率の引下げ問題 中国での労働者や技術者の確保難の現状、中国での日系繊維投資工場の経営と今後の方向性などのほか、その他、各種の問題について意見交換を行いました。

・ また、昨年 11 月には委員会として「タイ・カンボジア調査ミッション」を派遣しました。

今回のミッションの一つの目的は、タイ素材を活用したカンボジア等のアセアン近隣諸国縫製での対日輸出の可能性を検証することでしたが、相対的に考えて中国に比べてコスト、品質、納期等で優る点はあまり見出せないとの結論であったと思います。委員会として詳細なミッションの報告書を作成し、組合のホームページに掲載いたしました。

(本年の当委員会の活動予定)

- ・引続いて定期的に意見交換を行うと共に、中国を中心としたアジアの供給国で発生する組合員の共通の諸問題に対しては、組合の他の委員会とも協力して、対応してゆきたいと思います。
- ・更に、中国を中心にアジア諸国の繊維製品の供給国について引続き研究、調査を行ってゆく予定です。特に、今年は中国政府も奨励している沿海繊維工業の中西部地区などへの生産基盤のシフトについて研究、調査が必要と思っております。

8 . 欧州・北米専門委員会 (川村 副委員長)

昨年毛織物輸入実績は、速報値ベース 2,674 万平方メートルで前年比 100.1%、金額は 267 億円の前年比 105.0%と、微増ながら数量、金額ともに 4 年続けて増加致しました。昨年の毛織物市場概況は、主要用途であるロードショップ向け紳士スーツ市場での在庫調整の進展、また振興 SPA などによる国内縫製用生地への輸入などにより、上期は数量・金額ともに約 7% 程度増加したものの、下期はミセスゾーンを中心にレディース市場の縮小やウール離れ、ユーロ高の進展による欧州服地の苦戦などにより輸入が減少し、通年では微増となりました。

国別に見ると、数量では最大供給国である中国からの輸入が数量 0.2% 増、金額で 11.1% 増加、数量では第 2 位、金額では第 1 位のイタリアからの輸入は数量 5.2% 増、金額も 7.4% 増となっております。

当委員会が本年 1 月開催の委員会で策定した本年の輸入見通しにつきましては、紳士スーツ市場での在庫調整が進むなどプラス要因があるものの、羊毛生産量の減少による原料価格の高騰や、いわゆる 2007 年問題に伴うスーツ購入層の大量退職による需要減などマイナス要因が見込まれ、また欧州からの高級生地についてもユーロの一段高が懸念されていることなどから、数量が 4.6% 減の 2,550 万平方メートル、金額は 2.7% 減の 260 億円との見通しを立てました。

また、欧州及び北米からのブランド品を中心とした製品輸入に関しましては、一部のラグジュアリーブランドは都心への出展攻勢が続くなど好調ぶりが伺えるものの、全般的には、この 1 年間で約 20 円も上昇したユーロ高によるコストアップで厳しい状況が続いています。セレクトショップにおいては雑貨関連が比較的好調であるものの、総じて衣料品は苦戦が続く、また婦人プレタポルテは特に厳しさが増しております。

続いて委員会の活動状況についてご報告申し上げます。昨年は 3 月と 10 月の 2 回、ヨーロッパを中心とするインポート生地の合同展示商談会である日本輸入繊維代理店協会 (JITAC) 主催の「ジタック (JITAC) ヨーロッパテキスタイルフェア」に協力・参画し、毛織物を始めとする輸入製品全般についての輸入情報提供を行いました。また、10 月には ウールマーク

カンパニーの高橋経済調査部長を講師に迎え「アパレル消費動向について」の情報交換を行なうなど毛織物に限らず、製品、特にヨーロッパを中心としたブランド品の繊維消費動向などのテーマを取り上げ活動して参りました。

また、新年度の事業計画につきましては従来の活動に加え、拡大する EU での繊維産業の動向調査、あるいは高級衣料の新たな生産・消費拠点を調査・開拓するために旧東欧や中東、またはそれに準ずる地域へのミッション派遣、及び引き続き市場動向についての情報交換などを検討しておりますので、ご理解ご協力をお願い致します。

9. 貿易制度専門委員会（大迫委員長）

当委員会は評価申告や関税等国内外の貿易制度や繊維製品のリサイクルなど組合員に直接関連する制度上の問題を改善する事を目的に活動しております。課題を絞り込みより専門的に対応するため 2002 年度より当委員会内に環境・リサイクル対策グループ、ロジスティクス対策グループ、関税評価対策グループの 3 対策グループを設置しました。

2006 年度の活動状況及び 2007 年度事業計画案をご報告致します。

1. 2006 年度活動状況

各個別対策グループの活動状況に沿ってご説明いたします。

（1）環境・リサイクル対策グループ

先ず、環境・リサイクル対策グループについてご説明いたします。

当対策グループは経済産業省の「繊維製品 3R 推進会議」におきまして、拡大生産者責任を負う貿易業者として日本貿易会と共同で提出しておりますアクションプランに基づき活動を行っております。

アクションプラン実施状況として、

非営利団体への協力を掲げております。福島県いわき市 NPO 法人「ザ・ピープル」() に対し、昨年度末より衣料品回収ボックスの提供を行い、いわき市内を中心 (18 ヶ所) に段階的に設置されております。

衣料品の廃棄ゼロを目指し、古着を回収し再販、収益金にて障害者支援、海外支援などを行っている NPO 法人。

同アクションプランにおきまして、(米国や欧州は METI にて調査済であることから) 環太平洋・アジア諸国を中心に、繊維製品 3R の実態を調査することを掲げております。今までに台湾、シンガポール、豪州、韓国と派遣し、METI の推進会議ではご報告 (韓国は次回以降) して参りましたが、今年度につきましては中古衣料品の最終仕向け地となっているマレーシア

(クアラルンプール)とタイ(バンコク)を対象に調査を行う予定で現在事前調査中()で
おります。

(2) ロジスティクス対策グループ

次ぎにロジスティクス対策グループについてご報告いたします。

当対策グループは、国内外の貿易制度上の問題を改善すること目的に活動しております。

「関税暫定措置法第8条」について

「平成19年度関税改正要望」にて、関税暫定措置法第8条で輸入が認められている革製品に対し、革製衣類や鞆などを製造するために必要な副資材が同法にて輸出原材料として認められていないことから副資材の追加を当局へ要望いたしました。しかしながら皮革業界団体と調整がつかず、残念ながら本年度における改正に至りませんでした。次年度に付きましても引き続き改善を要望していく予定であります。

「中国船社・海上運賃に係わる付帯費用改善要望」について

本件につきましては、日中航路の海上運賃に係わる付帯費用〔FAF(燃料割増料)、YAS(円高損失補填料)、EBS(緊急燃料油割増料)等〕は、本来、CIF、CFR 建の契約条件であれば、積地である中国側で海上運賃と共に徴収されるべきものであります。にもかかわらず、揚げ地である日本側の輸入者に請求しているという問題で、2004年11月に中国交通部及び中国船東協会、中国主要船社を訪問し、これら不明瞭な付帯費用の撤廃と海上運賃の適正化を求めて参りました。

中国側の姿勢は変わらない状況が続きましたが、昨年9月中国交通部は中国船社に対し、「日中定期便航路運輸の市場秩序の整頓及び規範化に関する公告」にて「ゼロ運賃」などにより国際海運市場秩序を乱す違反行為を調査し処置することを通知いたしました。

この結果、組合員各社にて中国船社の日本側への徴収が続いているか現状についてヒアリングしたところ、ほぼ各社が変化無く依然として払わされている状況であるため、再度、中国交通部、商務部及び業界関係機関を訪問し改善要望を行う予定であります。

税関や通関業者との意見交換

明日(2月9日)には福岡港湾局内に海貨業者にて構成された「海貨ロジスティクス研究会」にて、当委員会にて繊維品輸入と物流事情などについてレクチャーと意見交換を行う予定で
おります。

今後は、各地通関業会などとの意見交換会の開催や主要税関の港湾設備の視察などを検討
しております。

(3) 関税評価対策グループ

関税評価対策グループでは、グループメンバー各社による税関の事後調査などの関税評価に関する情報交換や問題の共有化を図ると共に、組合員への直接的貢献を目的に時々の諸問題への対応を検討して参りました。

本年度は、関税定率法基本通達の一部改正「課税価格に含まれる仲介手数料その他の手数料」、「課税価格に含まれる特許権等の対価」などの改正点について、東京税関のご担当者よりご説明頂くとともに意見交換を行いました。

今後は、当対策グループの開催頻度を高めるとともに各地税関との意見交換を進めて行きたいと考えております。

2. 研修会の開催

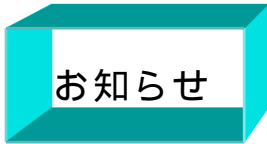
委員会といたしましては、組合員各社の新入社員を対象とし、東京、大阪、名古屋にて、各所轄税関担当官に講師を依頼し、輸入手続、評価申告、加工再輸入減税制度等の研修会を開催しました。2007年度につきましても引続き開催し、税関の港湾設備の現地研修など新たな項目も加え対応していきたいと考えております。

3. 2007年度活動計画案

2007年度の活動に関しては、業界の問題や組合員が直面する問題に関し引き続き各対策グループで対応し活動の深化を図っていこうと考えております。

以上の件につきまして企画委員会のご理解、ご支援をお願い致します。

以 上



繊維品の包括保険の「保険責任期間終了」と「保険期間延長手続き」(輸出組合)

以下に掲げる保険申込書の「保険責任期間」が、平成 19 年 3 月末日に終了しますので、延長を必要とするものがありましたら、必要書類を添付の上、組合に申請してください。保険責任期間が「6 ヶ月」延長されます。

- * 平成 18 年 9 月に新規提出された決済条件が、「前受け」のもの
 - * 平成 18 年 3 月に新規提出された決済条件が、「前受け」以外のもの
- (注) 当初の保険責任期間は「前受け」6 ヶ月、「前受け以外」12 ヶ月となっております。

1. 提出期限：平成 19 年 3 月 20 日(火)
2. 提出書類： 貿易一般保険包括保険(繊維品)
 保険期間延長依頼書 2 通
 (用紙は事務局で準備しています。)
 延長を必要とする包括保険申込書のコピー .. 1 通
3. 提出先:総務部(☎06-6201-1832)

なお、延長手続きの FAX による申込みも可能です。(FAX:06-6201-1814)
 保険期間終了の保険申込書番号は以下の通りです。

前受けに係る 2006 年 9 月度受付保険申込書番号

記号	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 6	104859 ~ 105375	102329 ~ 102638	100195 ~ 100208
	508868 ~ 509999		

前受け以外に係る 2006 年 3 月度受付保険申込書番号

記号	大 阪	東 京	名 古 屋
J T - 0 6	101229 ~ 101850	100510 ~ 100807	100049 ~ 100078
	502125 ~ 503532		

お知らせ

「イラン」向け保険引受方針の変更（輸出組合）

このたび貿易保険当局から、“「イラン」(国コード：133) 向けの引き受け方針を変更し実施日より適用いたします”旨連絡がありましたので、通知します。この結果、以下の取扱いとなります。

1. 引受限度額 : 新 10 億円

10 億円超の案件については、他の主要な輸出信用機関と同様、個別にリスク審査の上、引き受ける。

2006 年 9 月 13 日以降に Saderat 銀行が発行した USD 建て L/C、2007 年 1 月 11 日以降に Sepah 銀行が発行した USD 建て L/C は対象外。

旧 10 億円

10 億円超の案件については、他の主要な輸出信用機関と同様、個別にリスク審査の上、引き受ける。

2006 年 9 月 13 日以降に Saderat 銀行が発行した USD 建て L/C は対象外。

注 包括保険申込時に決済が L/C で支払国がイランの場合は必ず支払国欄に銀行名を記載して下さい。

2. ILC 取得条件 : 有り（据置き）

3. 国別倍率 : 4.5 倍（据置き）

* 国倍率（地域差料率）とは、非常危険てん補に係る保険料計算に適用される基本料率に対して掛けられる倍率です。

なお、ユーザンスが 6 ヶ月を超えるものは、ベルン・ユニオンのルールに基づき、従来どおり引受けられません。

4. 実施日 : 平成 19 年 1 月 18 日

お知らせ

「グルジア」向け他 8 カ国の保険引受方針変更（輸出組合）

このたび独立行政法人日本貿易保険（NEXI）から、“「グルジア」（国コード：157）向け他 8 カ国の繊維包括保険の引受方針及び国倍率を変更し、実施日より適用する。また、ガザ・エリコとサイプラスの国名・国コードの変更を行う”旨連絡がありましたので、通知します。この結果、以下の取扱いとなります。

1. 国名・国コードの変更

〔旧〕	〔新〕
「ガザ・エリコ（148）」	「ヨルダン川西岸及びガザ（158）」
「サイプラス（233）」	「キプロス（233）」

2. 国倍率及び引受条件（条件付引受国）（3 カ国）

<国コード>	<国名>	<国倍率>	<引受限度額>	<ILC 取得条件>
157	グルジア	6.0 倍（旧 8.0 倍）	10 億円（旧 5 億円）	有り（据置）
238	ウクライナ	4.5 倍（旧 6.0 倍）	無し（旧 2.0 億円）	無し（据置）
244	マケドニア	4.5 倍（旧 6.0 倍）	無し（旧 1.0 億円）	無し（旧有り）

3. 国倍率の変更（通常国 6 カ国）

<国コード>	<国名>	<国倍率>
232	ブルガリア	3.0 倍（旧 3.8 倍）
227	ハンガリー	3.0 倍（旧 2.0 倍）
236	ラトビア	3.0 倍（旧 2.0 倍）
231	ルーマニア	3.0 倍（旧 3.8 倍）
224	ロシア	3.0 倍（旧 3.8 倍）
242	スロベニア	0.2 倍（旧 1.0 倍）

国倍率（地域差料率）とは、非常危険てん補に係る保険料計算に適用される基本料率に対して掛けられる倍率です。

なお、ユーザンスが 6 ヶ月を超えるものは、ベルン・ユニオンのルールに基づき、従来どおり引受けられません。

4. 実施日： 平成 19 年 2 月 5 日

お知らせ

- 2007年3月の輸入通関手続相談窓口開設日 -

2007年3月の輸入通関手続相談窓口は下記要領により開設します。
申告手続、品目分類、関税評価、暫8手続等々通関業務諸問題について
ご相談の向きはご連絡下さいますようお願い申し上げます。

記

1. 開催日 2007年3月14日(水)及び3月28日(水)
2. 場所 日本繊維輸入組合 東京本部
3. 時間 午後1時より午後5時まで
4. アドバイザー 片山 喬次
(元東京税関関税評価部門特別価格審査官)
5. 連絡先

Tel 番号 03(3270)0791

Fax 番号 03(3243)1088

E Mail 0023@jtia.or.jp(片山)

なお、事前の面談申込みや相談窓口開設日以外のお問合わせ、
ご質問につきましては、事務局がお取次ぎ致しますので、本件
事務局担当：国信までご連絡下さい。

以上